

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県

自治体名：茨城県

担当課名：教育庁学校教育部保健体育課

電話番号：029-301-5361

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	6,097 km ²
人口	2,808,468 人
公立中学校数	229 校
公立中学校生徒数	68,525 人
部活動数	2,122 部活
都道府県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
都道府県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

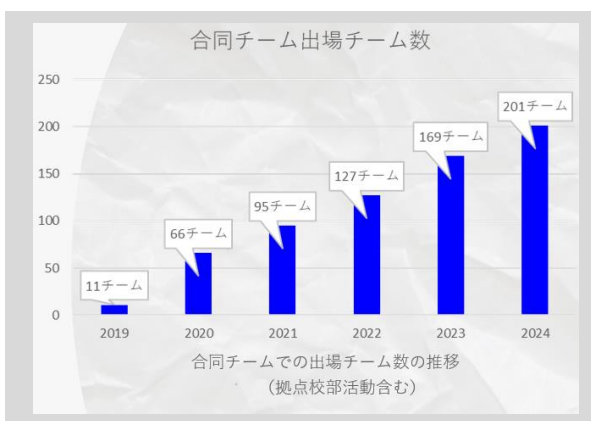
地域連携・地域移行における都道府県の現状・課題

令和3年度には2市、令和4年度には4市町、令和5年度には16市町と、取り組む自治体の数は年々増加しており、令和6年度には32市町村と、ほぼすべての市町村で地域の実情に応じた取組が開始されている。

地域移行の形態としては、自治体が直接運営する方式、自治体が認定したクラブを公募する方式、または運営団体を総合型地域スポーツクラブなどに委託する方式など、多様なアプローチが採られている。これは各地域の実情に合わせた柔軟な対応が求められるためである。これまでの取組の中で、生徒数だけでなく、受け皿となる団体の有無、指導者の数、学校部活動への意識の違いなど、地域ごとにスポーツや文化芸術活動の実情が異なり、それに伴う課題も大きく異なることが明らかになってきた。

その中でも共通する課題として、地域移行への理解の促進、費用負担の問題、指導者の確保の3点が挙げられる。

特に、一部の学校や部活動から自治体全域へと取組を拡大する際、これらの課題に直面する自治体が多い。今後、地域移行の完了を目指す段階では、これらの課題を避けて通ることはできない。そのため、新たな取組に挑戦し、課題解決に向けた工夫を重ねていく必要がある。



地域移行進捗状況

	2023年度	2024年度	2025年度 (予定)
市町村数	20市町村 実証事業16 独自事業4	36市町村 ↑ 実証事業32 独自事業4	41市町村 ↑ 実証事業36 独自事業5
部活動数	192部 (9%)	563部 (26.8%) ↑	1,104部 (52.6%) ↑

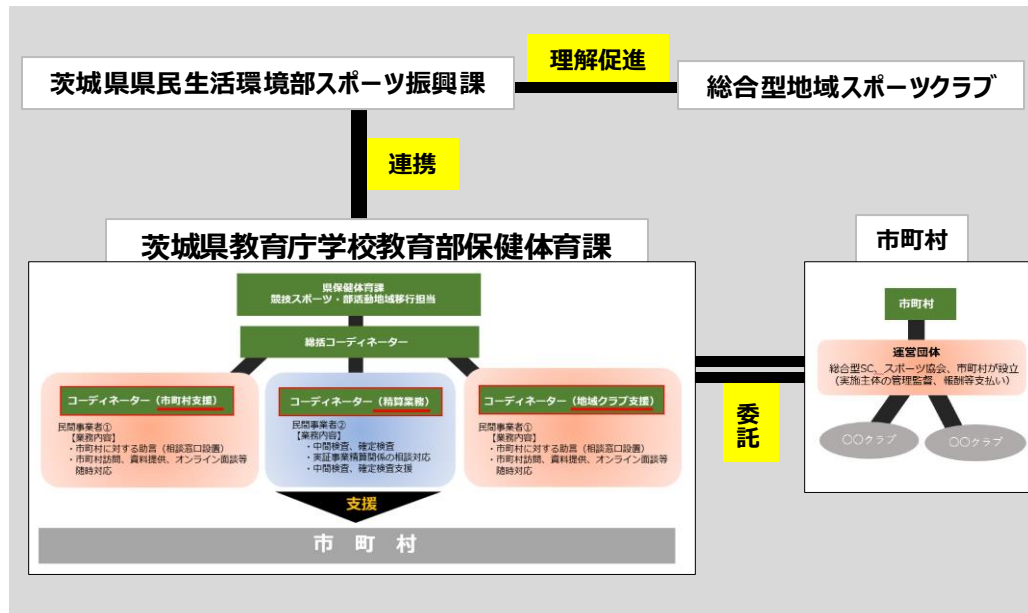
※部活動指導員の配置のみ、いわゆる「地域連携」の取組は含まない。

～県作成資料より抜粋～

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（都道府県における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動地域移行担当を配置し、総括コーディネーターとともに地域移行の取組を主導
- ・市町村訪問、市町村地域移行検討委員会等への積極的参加
- ・地域移行シンポジウム、地域クラブ指導者研修会の開催

◎首長部局

- ・総合型地域スポーツクラブの育成

年間の事業スケジュール

通 年	・茨城県地域クラブ活動人材バンク運用 ・市町村検討委員会オブザーバー出席（随時）
令和6年4月～5月	市町村訪問（全44市町村）
令和6年6月	重点地域担当者打ち合わせ（第1回推進会議）
令和6年7月	第1回市町村担当者連絡協議会
令和6年8月	・コーディネーター業務委託 ・コーディネーター（精算業務）業務委託
令和6年10月	市町村担当者地区別連絡協議会
令和6年12月	重点地域担当者打ち合わせ（第2回推進会議） ・地域クラブ指導者養成研修会 ・重点地域担当者打ち合わせ（第3回推進会議）
令和7年2月	・地域移行シンポジウム開催 ・地域移行シンポジウム視察（新潟・福岡・香川・福岡・熊本・沖縄）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 全市町村訪問（44市町村）
 - ・進捗確認、情報共有
- 市町村地域移行担当者連絡協議会開催
 - ・第1回（7月）
 - R 6 事業に関する説明
 - ・第2回（7月）
 - 重点地域の取組について
 - ・第3回（8月）
 - 実践事例紹介
 - ・第4回（10月）
 - 地区別研修会
 - ・第5回
 - R 7 事業への申請について
- 市町村検討委員会へのオブザーバー参加

取組の成果

<市町村への効果的な支援の成果>

	2023年度	2024年	2025年度 (予定)
地域移行 事業実施 市町村数 (市独自事業含む)	20	36	41
部活動数	192 (9%)	563 (26.8%)	1,104 (52.6%)

- ・取組市町村が着実に増加
2023年度：20→2025年度：41（予定）
 - ・市町村内での地域移行の取組が拡充（部活動数の増）
2023年度：192→2025年度：1,104（予定）
- コーディネーターを中心に支援体制を確立し、市町村の実態に応じた指導助言を実施することで、地域移行の取組が加速した。



コーディネーターによる市町村担当者研修会でのワークショップのようす

コーディネーターの具体的な動きの実績

- ①総括コーディネーター…政策立案、研修会企画、市町村への助言・指導
- ②コーディネーター… 総括コーディネーターの補助、市町村相談窓口設置
- ③コーディネーター（精算業務）…市町村及び地域クラブにおける適正な経費精算業務の在り方についての指導・助言

今後の課題と対応方針

市町村の実態に応じた、きめ細かな支援を継続するため、コーディネーターの配置を含む県の支援体制を強化していく。

さらに、特に地域移行の取組が難航している市町村については、重点的に支援（進捗管理、検討委員会への参加、推進計画作成支援）を実施する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

茨城県地域クラブ活動人材バンクの登録者数増と、指導者養成を目指す取組

- 関係団体への案内、周知
- 指導者研修用動画教材の作成
- 指導者研修会（県）の開催
- 市町村への教材提供

人材バンクの人数

434人

人材バンクの年齢構成

10代	8
20代	40
30代	63
40代	88
50代	86
60代以上	149

種目

陸上競技	35	卓球	20
水泳	10	バドミントン	14
ハンドボール	7	ソフトボール	18
野球	35	柔道	23
体操	3	剣道	28
サッカー	22	バスケットボール	30
バレーボール	22	弓道	16
ソフトテニス	15	その他	

資格有無

県の人材バンク登録にあたり、資格の有無は要件としていないが、指導者を探している市町村や地域クラブは資格の有無を確認できるシステムになっている。

登録した指導者に対する研修プログラムを用意している。

取組の成果

令和5年に設置して以来、関係団体や企業への周知、研修会の開催等により着実に登録者数が増加。（R6当初 273人→434人）

県の人材バンクは、市町村における指導者の確保を広域的にサポートするために設置しており、引き続き、地区や競技種目の偏りが無いように登録者数を増やしていきたい。

さらに、指導者がいないことを理由に地域移行の取組が停滞することのないよう、市町村や地域クラブに対し、積極的に人材バンクを活用するよう周知していきたいと考えている。



茨城県地域クラブ活動人材バンク リーフレット

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

オンラインで受講できる教材を県が作成し研修会を開催
終了後、市町村に共有し、市町村で実施する研修会において活用
することで、市町村での指導者確保に寄与

＜教材の内容＞ 動画形式 1 講座30分× 6 講座

内 容	講 師
① 指導者の役割～グッドコーチとは？～	稲垣 和希 (筑波大学体育スポーツ局・助教)
② 安全・効果的なトレーニング指導の基礎知識	川谷 響 (筑波大学体育スポーツ局・ヘッドS&Cコーチ)
③ スポーツ指導者に必要な医学的知識	西田 智 (流通経済大学スポーツ健康科学部助教)
④ ジュニア期におけるマルチスポーツの重要性	大山 高 (筑波大学体育スポーツ局・教授)
⑤ スポーツと法	入澤 充 (国土館大学大学院法学研究科・特任教授)
⑥ コンプライアンスの徹底	谷口 真由美 (一般社団法人スポーツハラスメントZERO協会・代表理事)

指導者研修の参加実績

- ・開催月：令和7年3月（オンデマンド形式）
- ・参加人数：200名
- ・その他：受講者には、レポート提出により受講認定証を発行
活用例）本研修の受講を市町村の指導者の資格要件に加える

受講者の声

4Csという用語を初めて知りました。生徒の「内発的動機付け」をどのようにしかけていくかを考えていかなければいけないと思います。以前、部活指導（女子バスケ）をしていましたが、半強制的な指導が多かった部分があったかな・・と反省しました。今後、地域クラブ指導者として活動していくにあたり、生徒の選択肢を増やしていきたいと思います。

（40代 バasketボール指導者）

指導者として、技術指導のみでなく、医学的な知識や応急処置は必要なスキルであると考えます。説明の中で終始述べられていた「安心・安全を担保できる存在」である指導者とはどのような姿か考えさせられました。

（50代 剣道指導者）

クラブ活動においては、指導員はクラブ員を育てるという立場から、上から目線に対応するようになりがちですが、相互間の意思疎通を図るためには、クラブ員も自分も同じ器の中で同じ目的を持って存在する仲間であるという考えに立って指導することが必要な気がします。

（30代 野球指導者）

今後の課題と対応方針

実証事業の取組を中心に地域移行が始まっているが、今後地域クラブでの活動が増えるにあたり、指導者の質の確保は重要な課題である。

指導者にはJSP Oの公認コーチなどを取得することが理想だが、一方で指導者確保のためには足枷になってしまう。

競技団体や市町村が認定制度をつくり、継続的な研修や、万が一不適切指導があった際の相談窓口の設置などが必要になってくると考えている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

担当者（地区別）連絡協議会
・県内を5地区（水戸・県北・県南・鹿行・県西）に分け、近隣市町村による広域連携の可能性をテーマに研修会を開催
・研修に際して、ワークシートを作成
各市町村の地域移行の進捗状況についてワークショップ形式にて確認

取組の成果



研修用ワークシート

Contents

合計約130分

■Part 01：部活動改革に必要なこと（15分）

- ・ポジティブな未来像の必要性
- ・部活動改革の目的

■Part 02：課題の整理と共有（75分）

- ・部活動改革に向けた課題整理
- ・課題や解決策共有、ディスカッション

休憩：10分

■Part 03：新たな取り組みの可能性（40分）

- ・広域連携の可能性（長野県飯田下伊那地区）
- ・その他の事例
- ・ディスカッション

■まとめ・質疑応答（10分）

第3回市町村担当者連絡協議会 研修資料



市町村担当者連絡協議会のようす

県内市町村においては、地域の実態に応じた地域移行の取組が開始されている。

この改革推進期間2年目のタイミングで当初の地域移行の目的について再確認することで、地域移行そのものが目的化されているような取組になっていないか見直す機会となった。

今後の課題と対応方針

取組を始めてはいるが、今後の地域移行完了に向けて規模を拡充していくためには、他市町村との広域連携は必須であるという意見が頻出した。

さらに具体的な取組の実施を引き続き支援していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

今年度は、これまでの実証事業の成果を踏まえ、地域の実態が異なっていることや、取組に地域差が出てきていることを意識しながら事業を実践してきた。

まず、総括コーディネーターに加え、新たにコーディネーター業務を民間企業に委託し、県の支援体制を整備した。このことにより、県担当者の業務が整理され、市町村からの相談や依頼に速やかに対応することができ、きめ細かい支援につながった。

また、市町村担当者連絡協議会、シンポジウム等において、コーディネーターが中心となって企画・運営を実施し、これまでの報告や実践発表ベースの連絡協議会ではない、ワークショップ型の研修を実施することができ、市町村担当者の主体的な取組を促すことができた。

さらに、指導者の確保という課題に対しては、県地域クラブ活動人材バンクの効果的な運用や、県地域クラブ指導者養成研修会を開催した。今後の課題としては、研修をより有効なものとするため、研修会の内容や受講認定の在り方などの制度設計について、関係団体と連携して取り組んでいく必要がある。

●成果の評価

今年度当初の課題であった、地域移行の拡充（移行対象となる部活動数が563部、26.8%にとどまっている）という課題に対しては、R 7年度予備調査の段階で1,104部、52.6%と大幅に増加する見込みであり、コーディネーターを中心に支援体制を確立し、市町村の実態に応じた指導助言を実施することで、地域移行の取組が加速したと評価できる。

また、指導者養成のための教材作成、指導者研修会は、今後懸念される指導者の質の保証や指導者の確保への対応を内容としている。受講者にはおおむね好評であったが、研修会の在り方やその位置づけ、指導者の任用条件などについては、今後の制度設計を含めて課題が残る。競技団体や市町村と協議を行い、指導者の質の保証と量の確保ができる仕組みづくりを模索していく必要がある。

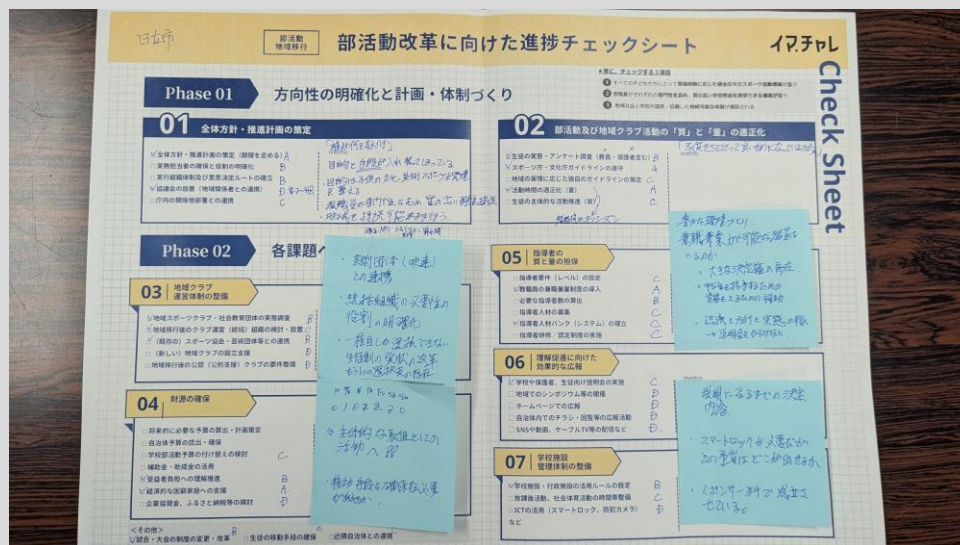
●今後に向けて

改革推進期間2年目が終わるところだが、数としてはおおむね順調に移行が進んでいる。部活動の地域移行は教育の質向上や教員の負担軽減、さらには地域の活性化という観点から重要な取組であることも確認されてきている。

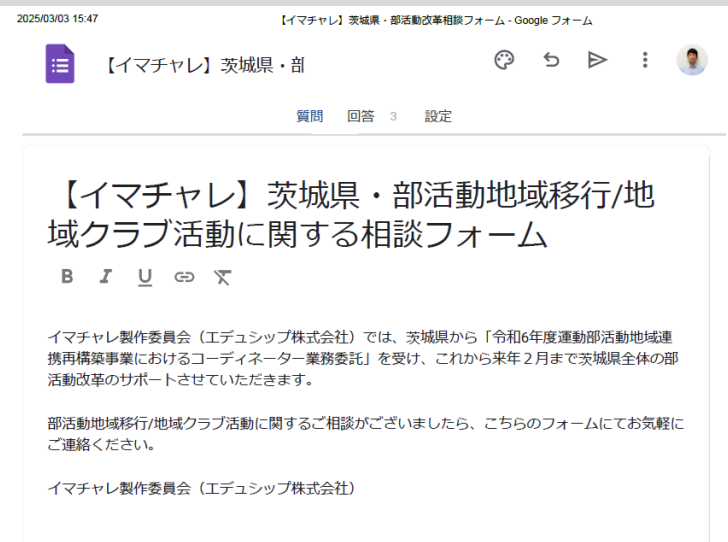
一方で、各地域の特性に応じた柔軟な対応が求められ、持続可能な仕組みを作るための課題も残されている。今後は、県内にとどまらず全国の成功事例を共有しながら、指導者の確保や活動の継続性を高める方策を検討し、地域全体で支える部活動のあり方を模索していく必要がある。

2.実証内容と成果③

その他の市町村支援

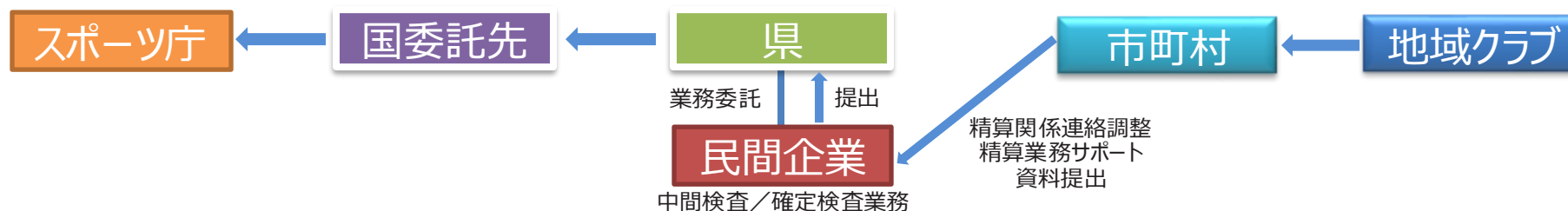


市町村の進捗状況が可視化できるワークシートを作成し、市町村担当者連絡協議会で活用



コーディネーターによる相談フォームの開設
(市町村→コーディネーター)

コーディネーター（精算業務）による市町村支援の流れ



地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和5年2月

茨城県地域クラブ活動ガイドライン【概要①】

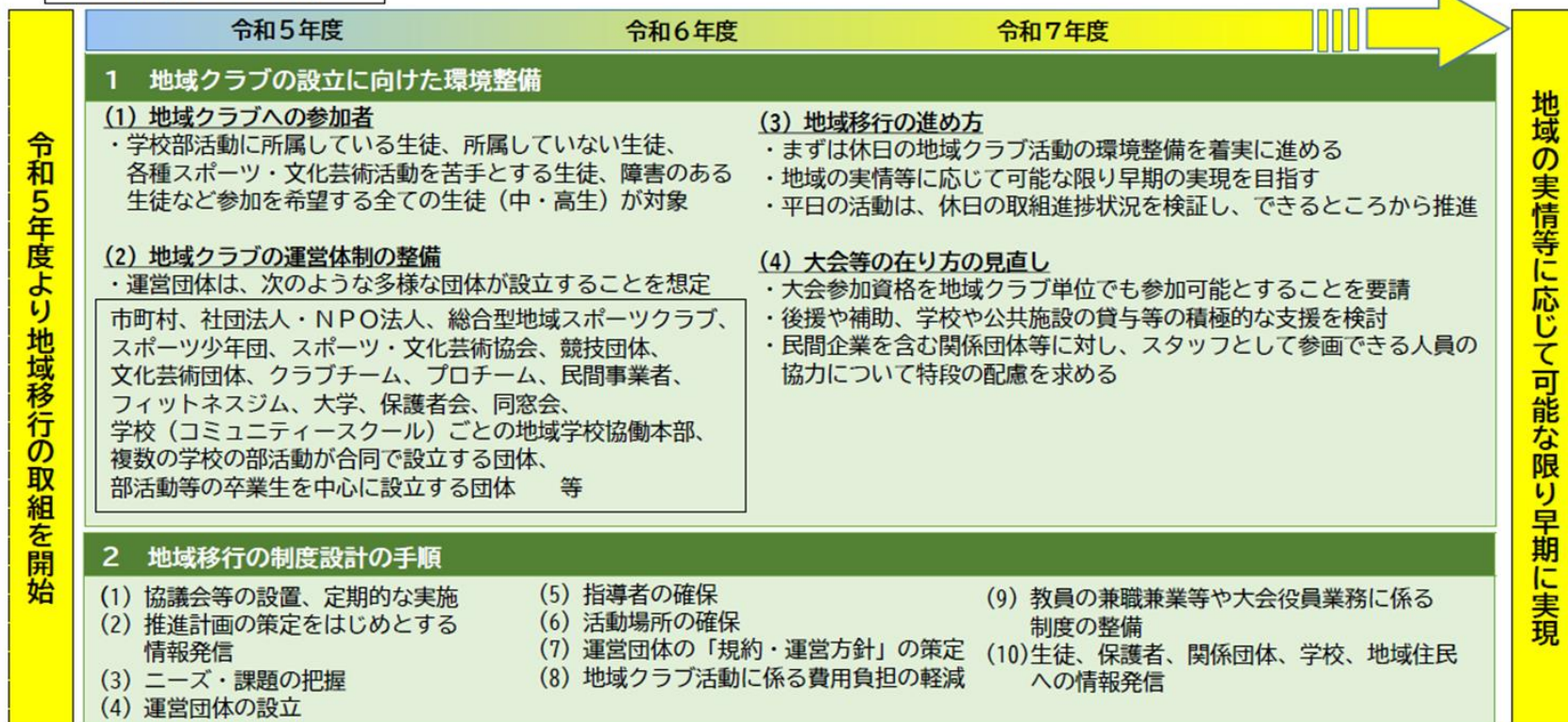
国の「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」及び、県有識者会議の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革に関する提言」を踏まえ、部活動を段階的に地域移行することによって、多様で持続可能なスポーツ・文化芸術環境を整備し、生徒の望ましい成長を保障する

○地域の子供たちを地域で育てることができる体制を社会総がかりで整備し支援

※地域クラブ活動は、社会教育法上の「社会教育」の一環としてとらえることができ、また、スポーツ基本法や文化芸術基本法上の「スポーツ」「文化芸術」として位置付けられる

○生徒が希望する活動を選択できる環境を保障するとともに、勝利至上主義等による活動過多を抑止

I 地域クラブの設立



令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 水戸市

自治体名： 茨城県水戸市

担当課名： 教育委員会総合教育研究所教育研究課

電話番号： 029-244-1331

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	217.4 km ²
人口	26.8 万人
公立中学校数	16 校
公立中学校生徒数	6,182 人
部活動数	242 部活 (特設部含む)
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	有
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	無

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市には16の中学校・義務教育学校があり、6,182名の生徒が通っている。

部活動については、運動部・文化部合わせて令和6年度7月時点で5,000名を超える生徒が加入しており、設置部活動数については、常設部と特設部を合わせて242部活となっている。生徒の部活動加入率は依然として高い状況にあり、運動部加入率を見ると、国・県と比較しても高い状況にある。

他市との比較により、部活動の設置数は多い現状にあるが、種目によっては、競技人口の減少により、複数校による合同チームを編成し、

大会に参加している現状もある。本市では令和3年度より部活動推進事業、スポーツ教室の開催など地域移行に係る取組を行ってきた。

しかしながら、地域移行のための制度の策定、学校、保護者、地域、市役所関係課における部活動地域移行に係る調整が十分ではないこと、他市町村と比較し学校数が多いこと、市街地と郊外の学校間で生徒数や設置部活動数などの差が見られることから、それぞれの学校や地域の実情に応じた地域移行に係る計画の策定が課題となっている。

	部活動数
運動部	207
文化部	35
合 計	242

【令和6年度部活動加入生徒数調査】

	運動部加入率
国	54.8%
茨城県	64.4%
水戸市	70.7%

【R6日本中学校体育連盟加盟校・加盟生徒数調査】

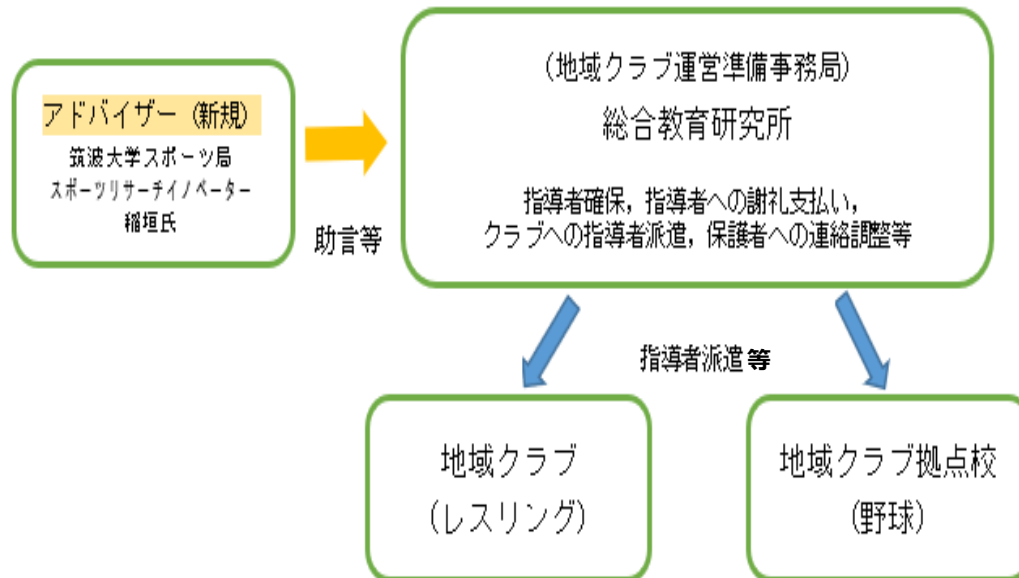
【R6茨城県中学校体育連盟調査】

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）

運営方法



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育研究課・・・部活動改革の主管，学校との調整・連絡，学校に関する事項について，休日の地域クラブ実証事業に関すること

年間の事業スケジュール

令和6年4月	休日の地域クラブ実証事業説明会 （対象校4校・保護者会）
令和6年6月	休日の地域クラブ実証事業説明会 （対象校・部活動加入生徒・保護者） 学校ヒアリング
令和6年7月	休日の地域クラブ実証事業 第1回運営委員会 （学校，指導者，市教委） 指導者研修会 学校ヒアリング
令和6年8月	休日の地域クラブ実証事業開始 学校ヒアリング
令和6年9月	水戸市部活動アンケートの実施 市関係課による検討会議
令和6年10月	市学校長会への説明
令和6年11月	各種団体への協力依頼
令和6年12月	市関係課による検討会議 第2回運営委員会 （学校，指導者，市教委）
令和7年2月	水戸市立学校部活動地域移行 推進協議会
令和7年3月	市関係課による検討会議 第3回運営委員会 （学校，指導者，市教委）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	2クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（4部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	11人	全体の運営スタッフ数	3人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
水戸市地域クラブ	水戸市教育委員会	軟式野球	月4回／週1回	8:00～12:00	1年生15名 2年生6名	R6.8月～ R7.2月	飯富中学校	6人	3人 （内、兼務×3人）	月会費／ 年会費なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ
水戸市地域クラブ	水戸市教育委員会	レスリング	月4回／週1回	8:00～12:00	1年生7名 2年生8名 3年生9名	R6.8月～ R7.2月	第四中学校	5人	3人 （内、兼務×3人）	月会費／ 年会費なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他

- 各種競技団体推薦指導者の配置による専門的な指導の担保
- 平日の部活動と休日の地域クラブの活動の接続目的とした部活動指導員の兼務
- 休日の地域クラブの指導を希望する教職員の兼職兼業

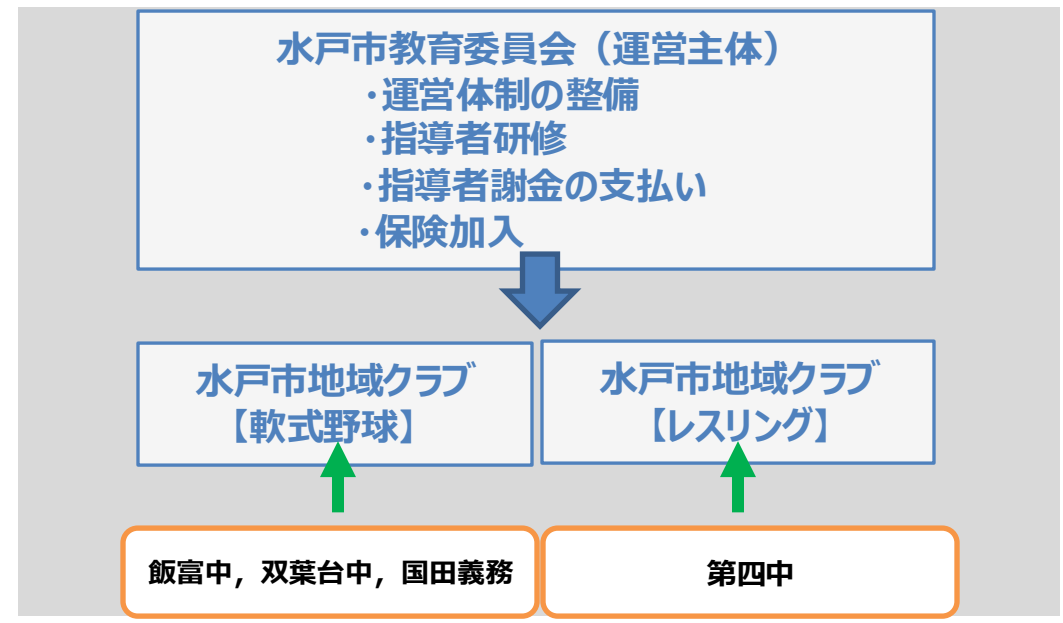
2.実証内容と成果

主な取組例

●水戸市地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球, レスリング
運営団体名	水戸市教育委員会
期間と日数	軟式野球・レスリング R6. 8月3日 ~ R7. 2月23日 月4回程度
指導者の主な属性	競技団体推薦指導者, 部活動指導員, 兼職兼業の教職員, 大学生, 地域指導者
活動場所	飯富中学校, 第四中学校
主な移動手段	徒歩, 自転車, 保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額) ※R6は費用負担なし	軟式野球: 0円 レスリング: 0円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり: 800円/年 指導者1人あたり: 1,850円/年

●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者(統括コーディネーター)

役割: 休日の地域クラブ実証事業の運営管理者として学校・保護者と調整を行う。

●指導者チーフ 2名

役割: 地域クラブにおける責任者として指導及び事故対応等を行う。

●指導者補助 9名

役割: 活動において指導者チーフの補助を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○教育委員会内に統括コーディネーターを1名配置し、部活動地域移行に係る方針決定のための庁内調整、関係団体との調整を行う。

○休日の地域クラブ実証事業に係る運営体制の整備に伴う指導者の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。

○連絡方法としてのICTの活用（導入費用0円）

取組の成果

○統括コーディネーターが中心となり、学校、保護者等との調整等を図り、実証事業を円滑に開始することができた。

○統括コーディネーターの配置により、市役所関係課による検討会において、部活動の地域移行に伴う共通理解を図ることができ、学校施設の活用や教職員の兼職兼業に関する整理をすることができた。

○統括コーディネーターの配置により、各種競技団体との連絡調整を図ることで、地域クラブの運営に係る指導者の確保ができ、部活動顧問に代わる運営体制の構築につなげることができた。

○通信アプリの活用により、活動のスケジュール管理、参加者への連絡、出欠席の確認、チーム記録の配信、指導者の活動記録など自立した連絡体制の構築につなげることができた。



【出典：チーム連絡アプリ】

コーディネーターの具体的な動きの実績

【統括コーディネーター】

- ・適宜活動の視察を行い、地域クラブ実証事業の活動に係る指導者への指導及び助言を行った。
- ・水戸市立学校部活動地域移行推進協議会の調整を行った。

今後の課題と対応方針

- 地域クラブの活動を持続可能なものにするための財源の確保
- 対象種目の拡充に伴う指導者の確保

【対応策】

- ・企業や大学との連携を図るとともに、指導者の協力、公的支援の在り方を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

- ・休日の地域クラブ指導者の資質向上のための研修会を年3回開催。
- ・各種競技団体に指導者派遣を依頼し、指導者の確保に努める。

人材バンク

設置予定

- ※早期の設置に向けて準備中
- ・設置基準の検討
- ・兼職兼業の検討

登録者属性

○軟式野球
市軟式野球連盟推薦指導者（1名）、水戸市部活動指導員（1名）教職員の兼職兼業（1名）、大学生（3名）

○レスリング
県レスリング協会推薦指導者（1名）部活動指導員（1名）教職員の兼職兼業（1名）、指導ボランティア（2名）

種目

- ・軟式野球
- ・レスリング

資格有無

- ・茨城県部活動指導員認定資格
- ・各種競技団体指導員資格

取組の成果

- ・専門的な知識や経験を有する地域クラブ指導者を11名確保した。
【軟式野球6名、レスリング5名】
- ・年3回、指導者研修会を実施し、各回積極的に指導者が参加することで資質の向上に図ることができた。
- 休日において、部活動顧問の代わりに地域クラブ指導者が活動にあたることで、残業時間が22時間の削減につながった。

【部活動顧問の勤務実態の変化】

	休日の地域クラブ実証事業前	休日の地域クラブ実証事業後
平均残業時間 ／月 (時間)	68.7	43.6

【部活動顧問の勤怠管理より集計】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

【第1回地域クラブ運営委員会（指導者研修）】

- ・対象：休日の地域クラブ実証事業指導者（軟式野球・レスリング）
- ・目的：休日の地域クラブの活動に係る共通理解，コンプライアンス研修
事故対応マニュアルの確認，施設破損時の対応，
休日の地域クラブの指導方針に係る共通理解，保険対応など
- ・工夫した点：新たな取組のため，上記の各種マニュアル対応に係る共通理
解の徹底を図った。

【第2回地域クラブ運営委員会（指導者研修）】

- ・目的：地域クラブの運営や指導に係る成果と課題，対応策の検討，
事務手続きの見直しなど
- ・工夫した点：実証事業の実績を基にした情報交換と諸課題への対応策の
検討を行う。

指導者研修の参加実績

- ・開催日： 7月18日，12月11日，3月開催予定【軟式野球】
7月21日，12月18日，3月開催予定【レスリング】
各種目3回
- ・参加人数： 軟式野球：7月18日【6名】，12月11日【3名】
レスリング：7月21日【5名】，12月18日【5名】
- ・各競技ごとに研修会を行うことで，地域クラブ運営に係る課題の整理を行った。

受講者の声



【第1回地域クラブ運営委員会】

○参加した地域クラブ指導者の声

「事故や熱中症の対応など分からないことがあったので，良い研修になった」
「地域クラブの運営に係る学校の考えや要望を確認する良い機会になった」

今後の課題と対応方針

○本市における地域クラブ実証事業は，平日の部活動との円滑な接続を目的としたため，学校関係者同席のもと共通理解の場として研修会を設けた。学校・指導者・教育委員会のそれぞれの視点で地域クラブの運営に係る情報交換を行うことで，効率的・効果的な連携方法について検討を行った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携していくため、中学校長会や実証事業対象校において本市の取り組み及び今後の見通し等の説明を実施する。
休日の部活動地域移行を推進するため、有識者を招聘した協議会を開催する。
○指導者の派遣依頼等を目的とした各種競技団体との連携調整を図る。

取組の成果

○中学校長会や対象校の部活動説明会、対象校のPTA保護者会等を訪問し、学校の協力を求めることで休日の地域クラブ実証事業の周知を図る機会を得た。
○地域の各種スポーツ団体の協力を得て、休日の地域クラブ実証事業に係る専門的な指導者を配置することができた。
○本市における休日部活動の地域移行を推進するため、様々な有識者を招聘し、水戸市立学校部活動地域移行推進協議会を開催し、諸課題の対応策等の協議や情報交換を行った。今後も部活動地域移行推進のため継続的に開催する。【出席者：学校関係者、中体連関係者、地域代表、保護者代表、企業代表、大学関係者】



【水戸市立学校部活動地域移行推進協議会】

バス等の運行実績

※地域移行に係るバスの利用等については、今後検討をする。

今後の課題と対応方針

○地域移行の推進のため、競技団体や大学、民間事業者等の多様な団体の参画が必要であるため、更なる連携強化を図る。
○運営の効率化を図るため、活動場所までの移動手段についても協議会等で検討を重ねる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○活動場所までの移動の負担を軽減させるため、隣接校を組み合わせ、休日の地域クラブ実証事業を実施する。

各自治体の役割

○水戸市教育委員会
 ・地域クラブ運営、予算管理
 ・関係機関との連絡、調整
 ・理解促進に向けての説明会等の実施
 ・謝金等の事務処理

移動手段

・徒歩、自転車、保護者送迎により活動場所まで移動をした。

事務局運営の方法

○水戸市教育委員会内に地域クラブ実証事業に係る運営事務局を設置。
 ○統括コーディネーターが休日の地域クラブ実証事業に関連する団体、学校等と連絡、調整を実施。

取組の成果

○休日の地域クラブ実証事業に参加した生徒は、軟式野球20名、レスリング24名の生徒が参加した。令和7年度については、休日の地域クラブ実証事業を継続する。レスリングについては対象校を拡充するとともに、対象を剣道、ソフトボールの4種目に拡大し、段階的に部活動を地域に移行していく。



【地域クラブの活動の様子】

今後の課題と対応方針

○移行に取り組む対象種目、対象校を段階的に拡大し、令和7年度内に本市の部活動地域移行に係る方針決定を目指す。
 ○平日の部活動との連携が課題。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○部活動に係る学校ヒアリングを実施し、各学校の部活動の運営に係る実態調査を行い、諸課題等の把握に努める。

○水戸市部活動アンケートを実施し、児童生徒・教職員等の部活動地域移行に係るニーズの把握に努める。

取組の詳細

ヒアリング対象	市内全中学校	対象学校数	16 校
ヒアリング内容	・部活動運営の現状と課題 ・他校との合同部活動の有無 ・外部指導者、部活動指導員等の活用の有無 ・生徒、保護者、教職員の部活動への要望等		
部活動の現状 (ヒアリング調査)	・男女分けを無くし、部活動数の整理を進めている。 ・集団競技より個人競技（陸上部）に入部する生徒が多い。 ・R 6 総体をもって廃部にする部活動あり ・合同部活動を編成し、大会参加する学校が複数あり。 ・近隣の中学校と連携を図り、部活動の整理も可能ではないかとの意見あり。 ・部活動数検討委員会の設置【運営委員、体育主任、部活動主任】 等		
指導体制	・副顧問が複数部活動顧問を兼任する現状にある学校が複数あり。 ・競技未経験者も顧問になっている部活動が多数あり。		
学校の意向	・部活動指導員を拡充し、顧問教員の負担軽減を図ってほしい。 ・生徒や顧問の教員が活動しやすいようにしてほしい		

令和6年度部活動ヒアリング結果 概要

種目(部)	学校・クラブ	1年生	2年生	計	部の状況(課題)	訪問日	顧問・生徒の意向	移行の可能性
ソフトボール	〇〇中	3	5	8	平日6名で活動していた。R6は〇〇中と合同チームを編成し、新人戦に出場する。 顧問はソフトボール専門	8月11日	顧問より、部員数の減少に伴い、部活動運営に苦慮しており、活動の維持のため、近隣の学校で合同チームが組めると助かるとの意見あり。	評価：高 〇〇中も拠点。顧問の協力、生徒のニーズ大。
	〇〇中	5			R6総体で廃部。2名の女子部員は野球部に転部。	8月6日	女子生徒より、近隣の学校の参加者が多い。野球やソフトボールができる場所があると良いという意見あり。スポーツ振興協会主催の野球教室にも参加したとのこと。	
	〇〇中				野球部で2名の女子生徒が活動。	8月6日	女子生徒より、近隣の学校の参加者が多い。野球やソフトボールができる場所があると良いという意見あり。スポーツ振興協会主催の野球教室にも参加したとのこと。	
	〇〇中				女子生徒(1年)が野球部に2名所属し活動をしている。1名は野球クラブに所属。 顧問は野球専門。	8月11日	生徒より、市内の参加者が多いようなスポーツ教室等の開催があれば参加してみたいとの意見あり。	

令和6年度部活動ヒアリング結果概要

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○水戸市部活動に関するアンケートの実施

本市の小・中学生5,893人を対象としたアンケートの結果、小学生の回答率は82.0%、中学生の回答率は73.2%となった。部活動の地域移行に向けた調査を行うことで、現在の学校部活動や地域移行に対するニーズを把握することができた。

調査対象及び調査方法・回答者数（令和6年9月25日時点）

対 象	調査方法	対象者数	回答者数（回答率）
小学校6年生	Google フォーム で回答	1,953 名	1,601 名 (82.0%)
義務教育学校6年生			
中学校1～2年生		3,940 名	2,883 名 (73.2%)
義務教育学校7～8年生			
教職員		1,351 名	713 名 (52.8%)
保護者		—	3,552 名

出典：水戸市部活動に関するアンケート結果（一部抜粋）

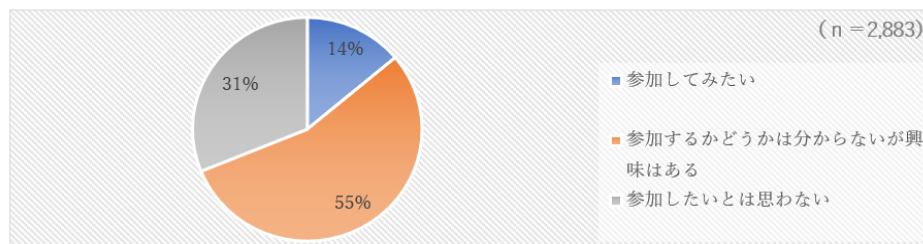
今後の課題と対応方針

○水戸市部活動に関するアンケートの中学生の回答結果によると、休日の部活動に代わり、地域ごとの新しい活動の場に対する参加ニーズについて「参加してみたい」「参加するかどうかは分からないが興味がある」と答えた中学生が69%になった。

また、部活動に代わる新しい活動に対するニーズについては、「部活動と同じ種目を選択し、技術や体力を高めたい」が36%、「部活動と同じ種

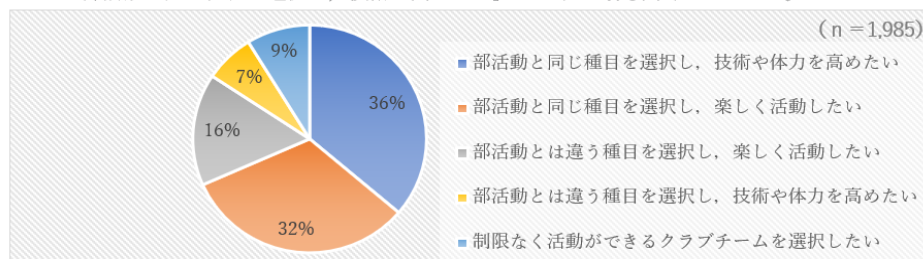
(7) もし、休日の部活動の代わりに、地域ごとに新しい活動の場ができるとしたら、参加したいと思いますか？

・「参加するかどうかは分からないが興味はある」が55%で最も高くなっている。



(8) 休日の部活動の代わりに、地域ごとに新しく活動の場ができるとしたら、どのような活動をしたいですか。

・「部活動と同じ種目を選択し、技術や体力を高めたい」が36%で最も高くなっている。



目を選択し、楽しく活動したい」が32%となった。競技志向の強い生徒と楽しみを重視する生徒が混在していることから、新たな活動の場においては、技術や体力を向上させる専門的な活動の機会（地域クラブ）や、生徒の多様なニーズに対応し、主体的な参加を促す活動の機会（スポーツ・文化教室）の確保など、子どもたちのニーズに応える新たな体制づくりを検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

※実証事業のため、参加者負担を求めている。

令和7年度以降、参加者負担を検討する。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

※ 該当なし

■ランニングコストの分析

- ・保険料（53千円）
- ・指導者謝金（753千円）
- ・コーディネーター費用（1,741千円）
- ・アドバイザー費用（700千円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

○令和6年度の実証事業については、受益者負担の設定はない。令和7年度以降、地域移行の方針決定とともに、検討を行う。

今後の課題と対応方針

○地域クラブの活動を持続可能にするための財源の確保は必須であるため、部活動地域移行の方針とともに受益者負担の在り方について、検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○休日の地域クラブ実証事業について、生徒の安全を確保するため、従来の部活動と同様に学校施設を活用し実施できるよう調整を行った。

○活動場所にキーボックスを設置し、休日の地域クラブの指導者が施設の施錠管理を行えるよう学校と調整を図った。

取組の成果

○学校の協力を得ることで、実証事業の活動は学校施設を活用して実施することができた。次年度以降も学校と連携を図ることで、学校施設の有効活用を検討していく。

○活動場所となる学校施設へキーボックスを設置することで、施錠について学校関係者に頼ることなく活動を行うことができた。

(※学校施設担当課にて対応。)



学校施設へのキーボックスの設置

今後の課題と対応方針

○今後については、実証事業の対象種目及び対象校の拡充を検討していることから、引き続き学校と教育委員会とが連携を図り、学校施設の有効な活用方法の検討をする。

○今後、部活動の地域移行に伴い、地域クラブや地域団体が学校施設を利用しやすい環境を整える必要があるため、学校施設の利用に係る調整を学校、市役所関係課とともに検討をする。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

○令和7年度以降の改革推進期間後を見据えた取り組みを推進する観点から、部活動指導員の配置を拡充し、指導者の確保につなげるとともに平日と休日の接続について検証を行った。

取組の成果

○実証事業の指導者については、軟式野球、レスリングにおいて1名ずつ部活動指導員を地域クラブ指導者として兼務を依頼した。平日の学校部活動と休日の実証事業の活動を関連付けることで、平日と休日の円滑な接続につながった。

年 度	配置数	内 訳	活動時間数
令和2年度	12人	運動部 12人	1,492時間
令和3年度	27人	運動部 25人 文化部 2名	3,240時間
令和4年度	28人	運動部 26人 文化部 2名	4,905時間
令和5年度	32人	運動部 30人 文化部 2名	5,953時間
令和6年度	35人	運動部 30人 文化部 5名	5,761時間 (※R7.1月末現在)

部活動指導員実績の推移

出典：部活動指導員活動報告より抜粋

指導者の属性や配置

・指導者の属性
部活動指導員

・配置について
平日と休日の接続について今後も課題となるため、部活動指導員の配置を拡充し、部活動を熟知した指導者の確保に努めた。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

○連絡アプリの指導者間連絡機能を活用する事で、活動内容等の共有を行った。

今後の課題と対応方針

○今後の休日の地域クラブ実証事業の対象の拡大に伴い、引き続き指導者の確保に努める。

⇒各種競技団体、大学や民間団体等に指導者の協力依頼を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保 / ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項（イ）

- ・休日の地域クラブ指導者の資質向上のための研修会を年3回開催。
- ・各種競技団体に指導者派遣を依頼し、指導者の確保に努める。

取組の成果（イ）

・休日の地域クラブ実証事業の実施にあたり、学校、指導者、教育委員会において、各種マニュアルの共通理解、休日の地域クラブの運営上の諸課題に対する共通理解、諸課題に対する対応策の検討を行った。

今後はコンプライアンス研修等の研修を設定し、指導者の質の保証を行う。



休日の地域クラブ実証事業指導者
(レスリング)

取組事項（ウ）

- ・水戸市立学校部活動地域移行推進協議会の開催
- ・指導者の派遣依頼等を目的とした各種競技団体との連携調整

取組の成果（ウ）

・休日の地域クラブ実証事業の実施にあたり、各種競技団体推薦指導者を2名配置した。次年度以降は、対象校数、対象種目を想定しているため、競技団体をはじめ、大学・民間団体と連携を強化し、指導者の確保を進める。



休日の地域クラブ実証事業指導者
(軟式野球)

今後の課題と対応方針

○令和7年度において、部活動指導員の活用を含め、大学や民間企業等の人材の活用、プロスポーツチームの協力等の可能性を検討するとともに、引き続き水戸市立学校部活動地域移行推進協議会で諸課題への対応策の検討を重ねる。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○令和6年休日の地域クラブ度実証事業において、対象の2種目について、4校4部活動の休日の活動を休日の地域クラブとして運営した。また、休日の地域クラブの運営にあたり、一部であったが教職員の兼職兼業の協力を得ながら、地域指導者が部活動顧問に代わり、子どもたちの活動を支援した。

複数校での実証事業の実施、学校職員以外の指導者が生徒の指導にあたるということもあり、運営や事故対応等についてトラブルを想定していたが、特に問題もなく、休日の地域クラブ実証事業を実施することができた。

一方、今年度の休日の地域クラブ実証事業において対応するケースは無かったが、学校及び指導者より生徒間のトラブルへの対処、熱中症や交通事故等への対処など、マニュアル等の整理が今後の検討事項としてあがった。

●成果の評価

○地域クラブの運営について

- ・部活動顧問以外の指導者が休日の地域クラブにおいて子どもたちの指導に当たることについて、専門的な指導をはじめ、子どもたちの活動を充実することにつながった。
- ・地域の人材を活用し、子どもたちへの専門的な指導の機会を確保することについて、教員の働き方改革という点においても、成果として挙げた。
- ・令和6年度については、実証事業の規模を限定して行ったが、今年度の取組を基に、次年度の計画に反映させる。

●今後に向けて

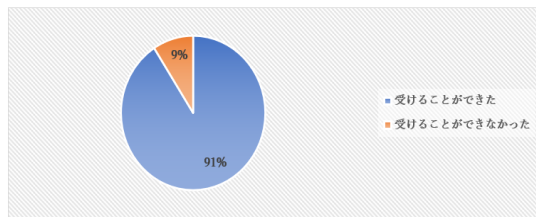
- ・令和6年度休日の地域クラブ実証事業の成果と課題を基に、令和7年度休日の地域クラブ実証事業の拡充を行う。
- ・地域クラブの運営に係る諸課題への対応のためのマニュアルの検討を進める。
- ・本市における部活動地域移行に伴う方針決定と地域移行推進計画の策定を目指す。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果 **【出典】：令和6年度休日の地域クラブ実証事業生徒アンケート**

○ あなたは休日の地域クラブの活動で専門的な指導を受けられましたか。



生徒アンケート結果

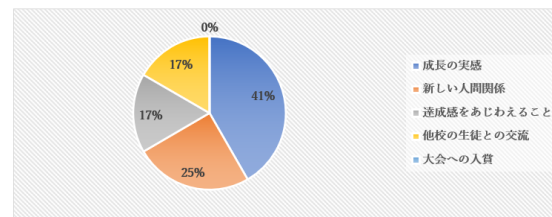
○ お子様が休日の地域クラブの活動に参加してよかったことはどのようなことですか。

- ・友達と楽しくできる活動 (30件)
- ・専門的な指導 (22件)
- ・成長の実感 (12件)
- ・新しい人間関係 (12件)
- ・他校の生徒との交流 (12件)
- ・達成感を味わえる (4件)

等

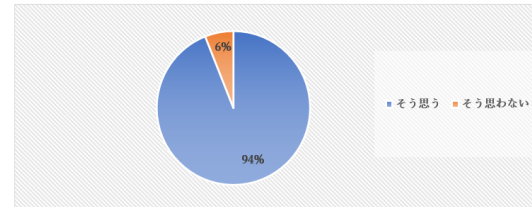
保護者アンケート結果

○ 休日の地域クラブの活動に参加してよかったことはありますか。



生徒アンケート結果

○ 休日の地域クラブの活動は、お子様にとって充実した活動になっていましたか。



保護者アンケート結果

● 参加者の声

中学1年生（レスリング参加生徒）

・レスリング協会の方や、地域の指導者に指導を受けることができ、休日の練習がとても充実した活動になった。

中学2年生（軟式野球参加生徒）

・沢山の指導者にサポートしてもらうことができ、楽しい活動になった。
・大学生の見本はとても参考になり、自分も大学生のようにプレーしたいと思った。

指導者

・生徒の活動を複数指導者で支える仕組みはとても良い。
・子どもたちは生き生きと活動している。
・部活アプリの活用はとても良い。

保護者

・子どもが休日地域クラブの活動を楽しそうに話をしてくれる。
・専門的な指導者が指導に当たってくれるので、保護者としても安心して預けられる。

2.実証内容と成果③

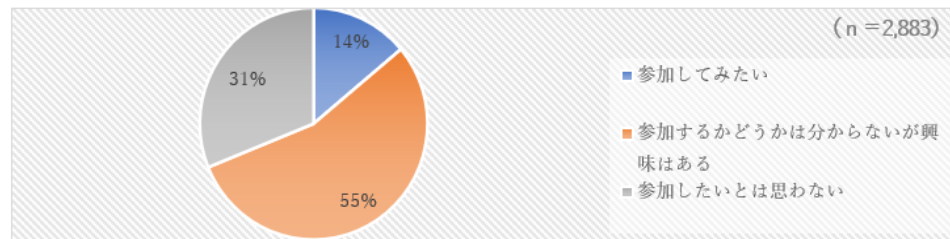
アンケート結果・広報資料

○水戸市部活動アンケート

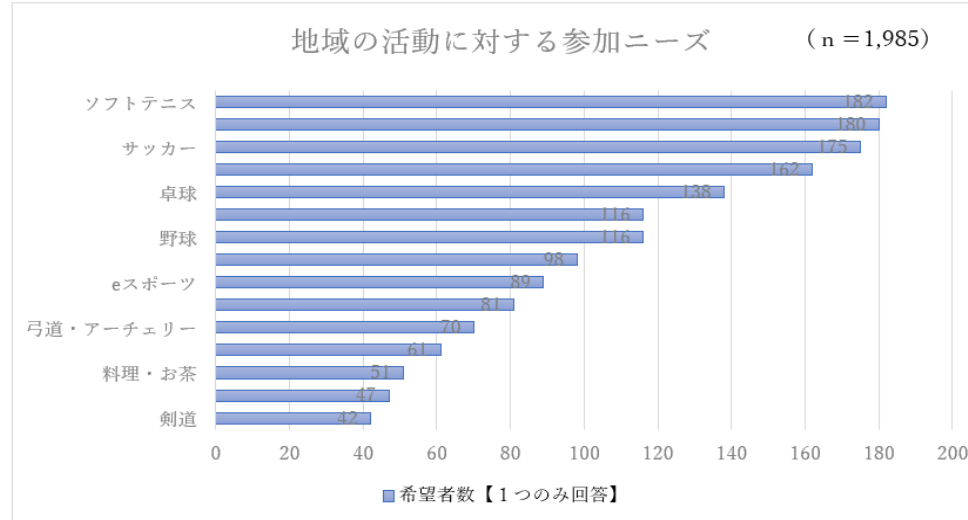
【中学生】

もし、休日の部活動の代わりに、地域ごとに新しい活動の場ができるとしたら、参加したいと思いますか？

・「参加してみたい」「参加するか分らないが興味はある」が69%となっている。



もし、休日の部活動の代わりに、新しくスポーツや文化活動の場所ができた場合、どのような活動に参加してみたいと思いますか。



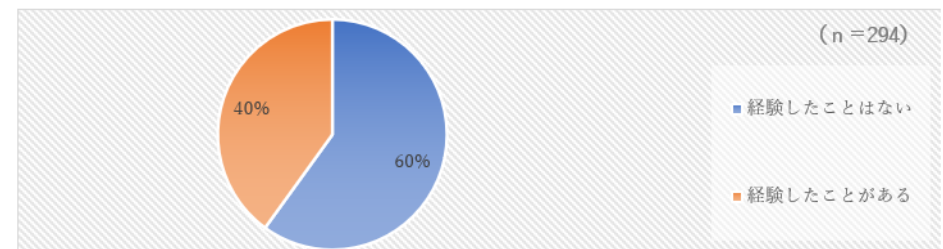
【水戸市部活動アンケート 中学生結果回答より一部抜粋】

○水戸市部活動アンケート

【教職員】

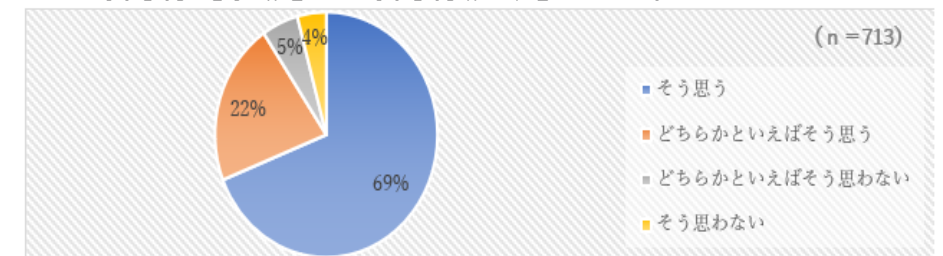
担当している部活動について、過去にご自身での活動の経験はありますか。

・「経験したことはない」が60%となっている。



休日の部活動の顧問は負担だと思いますか。

・「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が91%となっている。



【水戸市部活動アンケート 教職員結果回答より一部抜粋】

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



地域クラブ（軟式野球）での練習試合の様子



地域クラブ（軟式野球）でのバッティング練習の様子



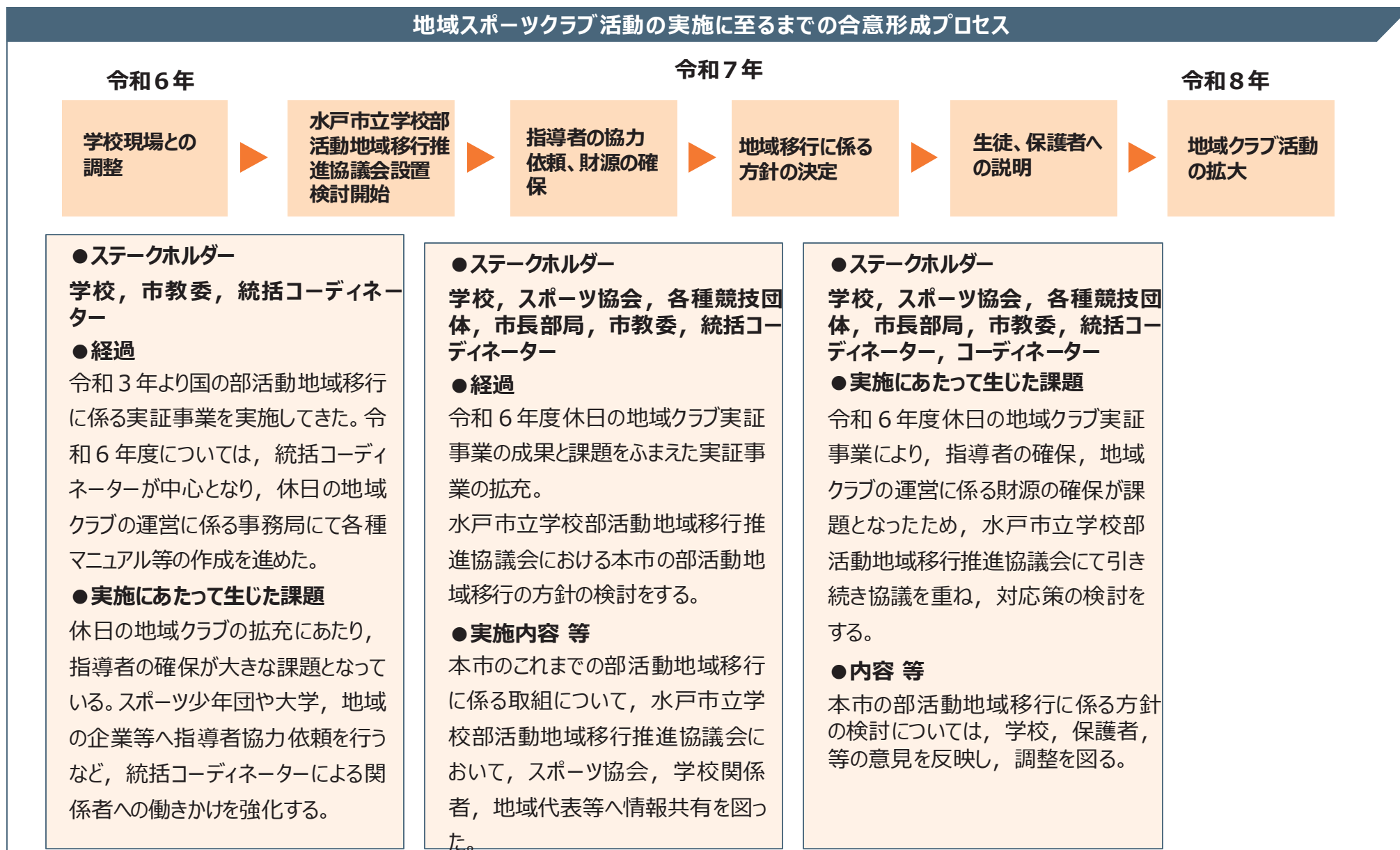
地域クラブ（レスリング）での打ち込み練習の様子



地域クラブ（レスリング）でのミーティングの様子

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

水戸市部活動改革スケジュール（案）

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
	地域運動部活動 実証事業 (国)	地域運動部活動実証事業 (市)		学校と地域の 連携強化
水戸市	R5：野球，ソフトボール， 男子ソフトテニス，女子ソフト テニス，剣道，バスケット ボール，男子卓球	R6：部活動指導員37名 配置 運動部：32名 文化部：5名 R6：休日の地域クラブ実 証事業 市内2拠点（4部活動） 地域移行に係る市役所関 係及び有識者との検討	R7：部活動指導員50名 配置 運動部：44名 文化部：6名 R7：休日の地域クラブ実 証事業 市内12拠点（19部活 動） 地域移行に係る方針の整理 地域移行推進計画の策定	R8：部活動指導員配置 運動部：○名 文化部：○名 R8年度の実績を上回る数 を配置 部活動地域移行推進計 画に基づいた活動の展開
	休日の部活動を 地域指導員に移行	休日の地域クラブ活動の充実		休日部活動の 地域連携の推進

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 日立市

自治体名：茨城県日立市

担当課名：指導課

電話番号：0294-22-3111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	225.73km ²
人口	163,300人
公立中学校数	16校
公立中学校生徒数	3,605人
部活動数	150部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

少子化の進行に伴う生徒数の減少により、部活動数や部員数の維持が難しくなっている。そのため、生徒が希望する部活動がなかったり、人数が確保できずに十分な活動ができなかったりという課題が見られる。

本市は、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の数が県内最多であり、これらの財産を

活かした部活動の地域移行を検討している。

日立市教育委員会としては、令和6年度から第1・第3土曜日を部活動の「地域移行に向けた準備の日」と位置づけ、国・県が示した改革推進機関である令和7年度末を目途に一体的に部活動の地域移行に向け、取り組んでいく。

- ・各校の部活動の種類が減少し、生徒が興味ある活動に親しめない現状がある。
- ・部活動の指導者となっている教師が、その種目の経験者ではない場合がある。

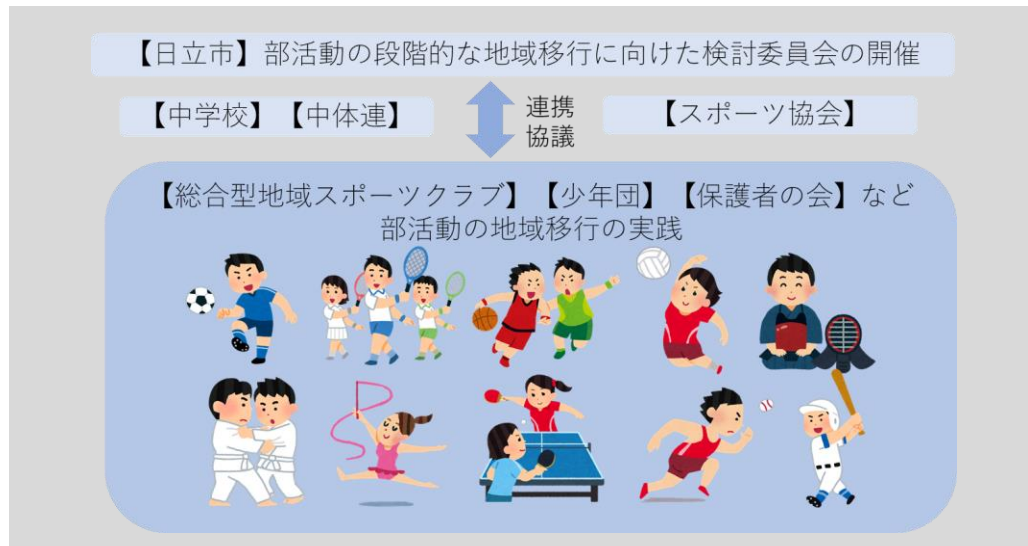
日立市15校中 存続している部活動数は

陸上	2校	剣道男子	10校
新体操	1校	剣道女子	10校
男子バスケットボール	9校	柔道男子	6校
女子バスケットボール	12校	柔道女子	6校
男子バレーボール	5校	サッカー	13校
女子バレーボール	11校	軟式野球	11校
男子ソフトテニス	12校	吹奏楽	15校
女子ソフトテニス	12校	美術	8校
卓球男子	15校	文芸・文化・工芸	4校
卓球女子	15校	パソコン	3校

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

指導課：学校・文化団体等との連絡調整

スポーツ振興課：スポーツ団体との連絡調整・学校施設の利用・開放等の調整

◎首長部局

なし

年間の事業スケジュール

令和6年1月

- ・全中学校を訪問し、部活動地域移行の概要を説明
- ・市地域エキスパートへのアンケート調査を実施
- ・中学校生徒へのアンケート調査を実施

令和6年2月

- ・スポーツ少年団へのアンケート調査を実施

令和6年3月

- ・保護者に休日の部活動の段階的な地域移行について通知
- ・少年団との懇話会を実施
- ・部活動の段階的な地域移行に向けた検討委員会（書面開催）

令和6年5月

- ・校長会役員会との協議
- ・市と総合型地域スポーツクラブ3団体が地域移行実証事業に係る委託契約を締結

令和6年7月

- ・スポーツ少年団への説明会を実施
- ・部活動の段階的な地域移行に向けた検討委員会を実施
- ・スポーツ少年団への周知資料配布
- ・校長会役員会への進捗状況報告

令和6年8月

- ・県主催「部活動地域移行シンポジウム」への参加
- ・スポーツ少年団へのアンケート調査の実施
- ・地域移行視察（東海村）
- ・周知広報に向けての指導課とスポーツ振興課の話し合い

令和6年9月

- ・学校長会へ概要説明

令和6年12月

- ・市P連に概要説明
- ・総合型地域スポーツクラブとの協議

令和7年1月

- ・小学5年～中学3年の児童生徒・保護者対象に啓発チラシを配布
- ・各学校において新入生保護者説明会で概要説明

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	11 校	実施した地域クラブ総数	3 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（34 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	43人	全体の運営スタッフ数	8 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
NPO法人 UPOPO十 王スポーツ 文化クラブ	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	8 種目12部 活動	月 2 回	午前又 は午後の 3時間	153人	通年	十王中学 校グラウン ド外	21人	2 人	入会金 2,000円／ 年 会費 12,000円 ／年	中体連：部 活動
滑川ファミ リースポーツ クラブ	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	7 種目10部 活動	月 1 ～ 2 回	午前の3 時間	84人	通年	滑川中学 校グラウン ド外	8 人	2 人	会費 12,000円 ／年	中体連：部 活動
ひたちみなみ スポーツクラ ブ	総合型 地域ス ポーツクラ ブ	1 種目 1 部 活動	月 2 回	午前の3 時間	65人	通年	久慈サン ピア日立 テニスコー ト外	14 人	4 人	入会金 1,000円／ 年 会費 9,600円／ 年	中体連：部 活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

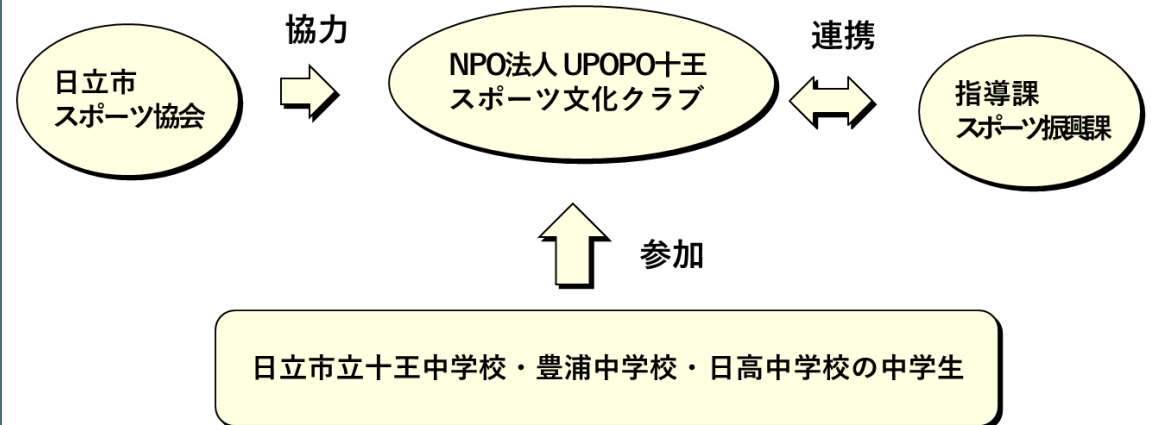
2.実証内容と成果

主な取組例

●NPO法人UPOPO十王スポーツ文化クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	軟式野球、サッカー、男女ソフトテニス、男女卓球、男女バスケットボール、男女バレーボール、剣道、バドミントン
運営団体名	NPO法人十王スポーツ文化クラブ
期間と日数	通年 月2回程度
指導者の主な属性	地域住民（部活動指導員、市エキスパート指導員等）
活動場所	十王中学校グラウンド外
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	入会金2,000円／年 会費12,000円／年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

運営スタッフ2人 会費等徴収、指導者確保、広報
指導スタッフ21人 各種目の指導全般

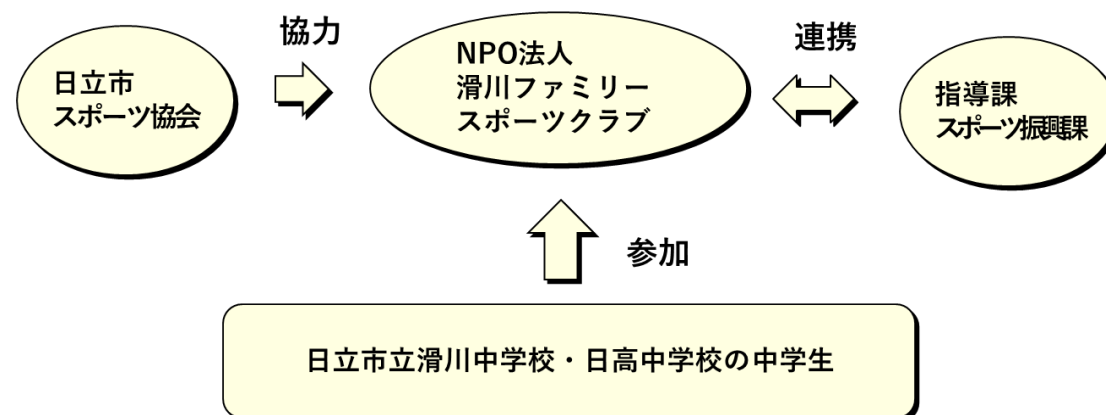
2.実証内容と成果

主な取組例

●NPO法人滑川ファミリースポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、男女ソフトテニス、卓球、男女バスケットボール、男女バレーボール、陸上、柔道
運営団体名	NPO法人滑川ファミリースポーツクラブ
期間と日数	通年 月1～2回程度
指導者の主な属性	地域住民（部活動指導員、市エキスパート指導員等）教員のボランティア
活動場所	滑川中学校グラウンド外
主な移動手段	徒歩
1人あたりの参加会費等（年額）	会費 12,000円／年
1人あたりの保険料	AIG損害保険 生徒1人あたり：363円/年 指導者1人あたり：5,210円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

運営スタッフ2人 会費等徴収、指導者確保、広報
指導スタッフ8人 各種目の指導全般

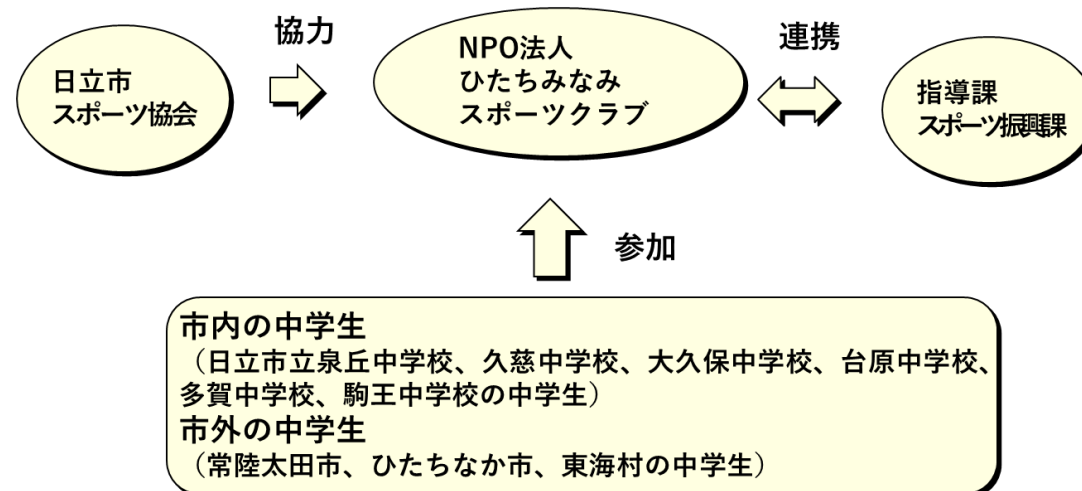
2.実証内容と成果

主な取組例

●NPO法人ひたちみなみスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス
運営団体名	NPO法人ひたちみなみスポーツクラブ
期間と日数	通年 月2回程度
指導者の主な属性	地域住民（部活動指導員、市エキスパート指導員等）
活動場所	久慈サンピア日立テニスコート外
主な移動手段	徒歩、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	入会金1,000円／年 会費9,600円／年
1人あたりの保険料	レクリエーション障害保険 生徒1人あたり：270円/年 指導者1人あたり：3,970円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

運営スタッフ2人 会費等徴収、指導者確保、広報
指導スタッフ8人 各種目の指導全般

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・総合型地域スポーツクラブとの協議（4月・7月・12月）
- ・校長会役員会との協議・進捗状況の報告（5月・7月）
- ・検討委員会の開催（7月）
- ・スポーツ少年団への説明会（7月・2回）
- ・市P連に概要説明（12月）

取組の成果

検討委員会による包括的なアプローチから、スポーツ少年団等、関係団体・分野への個別のアプローチに徐々に移行し、積極的に連絡調整を進めている。

コーディネーターの具体的な動きの実績

コーディネーターを設けていない

今後の課題と対応方針

運営体制については、国の実行会議においても重要な課題として捉えているので、早期構築に向けて関係団体と協議を進めていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

現在、中学校で外部指導者として活動している市地域エキスパート58人を対象に、令和6年1月にアンケート調査を実施した。

休日の部活動に際し、地域の指導者として関わることについて、肯定的な回答は85%（34人）であった。

人材バンクの人数

人材バンクを設けていない

人材バンクの年齢構成

人材バンクを設けていない

登録者属性

人材バンクを設けていない

種目

人材バンクを設けていない

資格有無

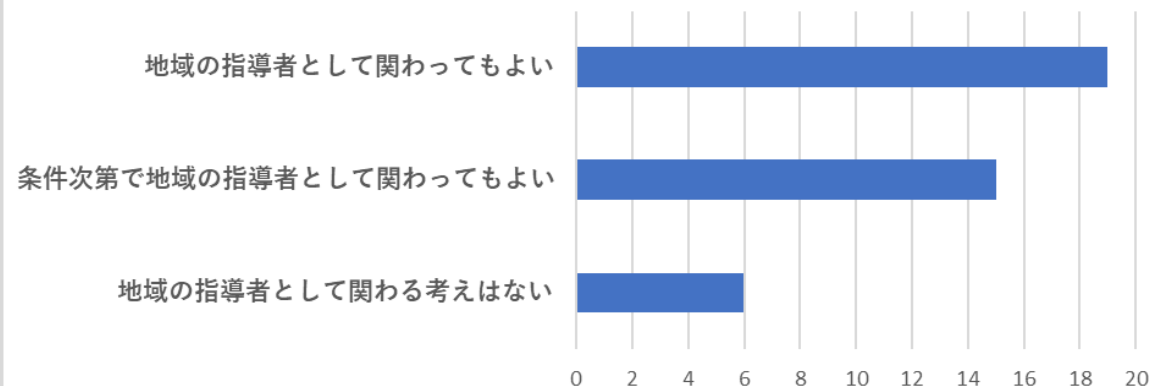
人材バンクを設けていない

取組の成果

指導者の質の保障・量の確保については、多様な人材の発掘と配置、指導方法の工夫や研修の充実等が課題として挙げられている。

本市には多様な人材がおり、関係団体と連携して新たな地域人材の発掘に努めるとともに、現在、中学校で外部指導者として活動している市地域エキスパート等の人材の活用を更に進めていく。

休日の部活動の地域移行に際し、地域の指導者として中学生と関わることについてどう考えるか（市地域エキスパート）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

関係団体が地域スポーツクラブの指導者の質の向上を図るために、指導者講習会の開催等を行っている。

受講者の声

なし

指導者研修の参加実績

なし

今後の課題と対応方針

今後も関係団体の協力を得ながら、中学生への指導法や対応に係る研修会や講習会を更に充実していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・実証事業に参画している総合型地域スポーツクラブとの連携（随時）
- ・校長会役員会との協議・進捗状況の報告（5月・7月）
- ・スポーツ少年団への説明会（7月・2回）
- ・市P連に概要説明（12月）

取組の成果

本市は総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の数が県内最多であり、これらの財産を活かし、関係団体との連携を積極的に進めながら、中学生の受入れに協力してもらえる地域クラブの確保に努めている。

バス等の運行実績

なし

今後の課題と対応方針

今後も関係団体との連絡調整を積極的に行い、中学生の受入れに協力してもらえる地域クラブの確保に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

令和6年度に実証事業を行った総合型地域スポーツクラブ三団体（UPOPO十王スポーツ文化クラブ、滑川ファミリースポーツクラブ、ひたちみなみスポーツクラブ）では、近隣の中学校の生徒も参加した。

ひたちみなみスポーツクラブでは常陸太田市、ひたちなか市、東海村の生徒が自治体の枠を超え、参加した。

各自治体の役割

特になし

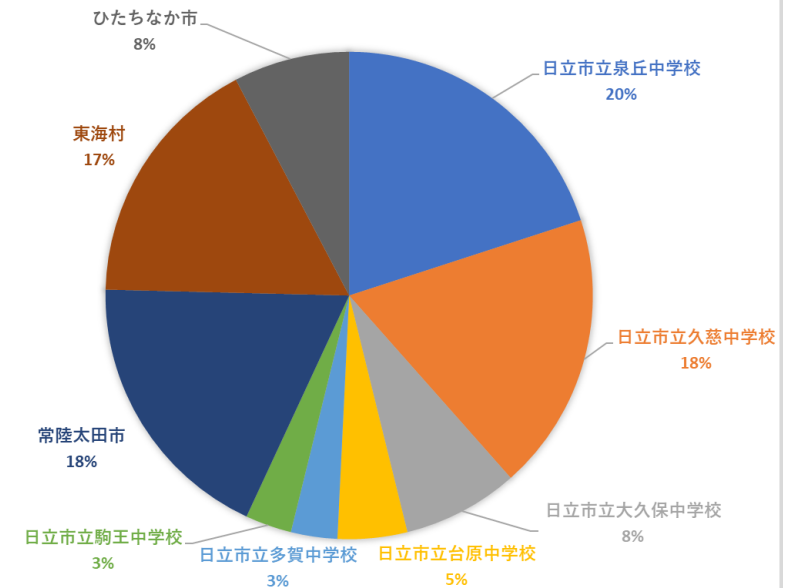
移動手段

実施場所から遠方の生徒は保護者の送迎による。

事務局運営の方法

各地域クラブが自主運営

ひたちみなみスポーツクラブ参加者の属性



取組の成果

UPOPO十王スポーツ文化クラブは3校の生徒が参加した。

滑川ファミリースポーツクラブは2校の生徒が参加した。

ひたちみなみスポーツクラブは14校（市内37人、市外28人）の生徒が参加した。

今後の課題と対応方針

引き続き、広域的に中学生の受入れに協力してもらえる地域クラブの確保に努める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

・スポーツ少年団へのアンケート調査の実施（8月）

活動の詳細

参加人数	36団	指導者数	各スポーツ少年団の代表者
属性	スポーツ少年団		
具体的な内容	県内最多であり、本市の重要な資源のひとつとして捉えているスポーツ少年団に、生徒の受入れの可能性、会場、指導者、費用等についてアンケート調査を実施した。		
関係者の声	少年団92団のうち、36団から回答をいただき、生徒の受入れについて「協力できる・既にしている」と回答した団は19団、「条件付きで協力できる・条件次第で検討する」と回答した団は10団、協力できない（土・日はもともと活動していない）と回答した団は6団、「まだ、判断がつかない」と回答した団は1団であった。		
運営経費	中学生の受入れにあたって新たに発生すると考えられる経費として、大会参加費や引率に係る費用（26団）、指導者への謝金（19団）、中学生向けの備品、消耗品（14団）が挙げられた。		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

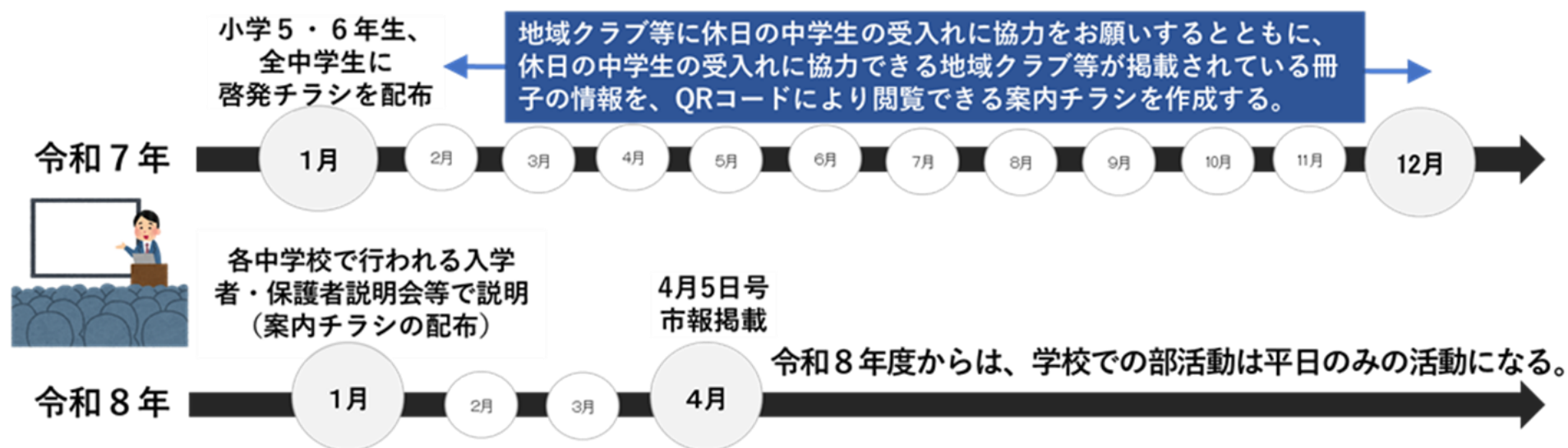


取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップを作成し、関係団体等に周知理解を図った。



今後の課題と対応方針

・本市は、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の数が県内最多である。また、文化少年団やクラブチーム、保護者の会、習いごと、塾など、中学生の休日の活動は多くの選択肢がある。

・休日の生徒の活動は、休日に活動を希望する中学生が、好きなことを、多岐にわたる選択肢から選択できるようにする。

・中学生が多岐にわたる選択肢から休日の活動を選べるよう、休日に中学生の受入に協力できる地域クラブ等が掲載されている冊子の情報を、QRコードにより閲覧できる案内チラシを作成し、令和8年1月に各中学校で開かれる入学者・保護者説明会等で説明することを目標としている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

地域クラブ等への参加者は、その地域クラブ等が定める参加費用負担を支払う。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

新たに中学生が地域クラブに参加することにより、
・消耗品費
・会場使用料
などがイニシャルコストとして想定される。

■ランニングコストの分析

・消耗品費
・会場使用料
・保険料
・大会参加費・登録費
・謝金を支払い運営しているかたちの地域クラブは人件費
などがランニングコストとして想定される。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

指導者謝金や事務局人件費を支払い運営しているかたちの地域クラブが自走していくためには、参加者数にもよるが、概ね月2,000円～3,000円の受益者負担額の設定が必要と試算している。

収支バランス

特になし

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

経済困窮世帯へは就学援助制度を適用し、無償で休日の地域移行に協力する地域クラブの活動に参加できるようにしている。
令和6年度は19人に就学援助制度を適用している。

今後の課題と対応方針

引き続き経済困窮世帯へは就学援助制度を適用し、無償で休日の地域移行に協力する地域クラブの活動に参加できるよう支援する。
受益者負担額の設定については、保護者等の理解が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本市では、地域クラブ等が地域において円滑に継続していくための場の提供は重要であると認識しており、小中学校のグラウンドや体育館等の公共施設の優先利用に努めている。

取組の成果

現在、休日の地域移行に協力できる地域クラブ、保護者の会等、31団体が休日に小中学校のグラウンドや体育館等の公共施設を優先利用している。

今後の課題と対応方針

引き続き、地域移行に協力できる地域クラブ等の、小中学校のグラウンドや体育館等の公共施設の優先利用に努める。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

総合型地域スポーツクラブ3団体（十王スポーツ文化クラブ、滑川ファミリースポーツクラブ、ひたちみなみスポーツクラブ）が実証事業に参画し、本市の多くの生徒たちが休日にスポーツ活動に参加できる体制づくりのために、持続可能な運営のための指導者の確保、生徒の希望に応えられるような種目の拡充、受益者負担への理解等の課題を検証した。

中学生が総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動に加え、文化少年団やクラブチーム、保護者の会、習い事や塾など、多岐にわたる選択肢から休日の活動を選べるよう、休日に中学生の受入れに協力できる地域クラブ等が掲載されている冊子の情報を、QRコードにより閲覧できる案内チラシを作成し、令和8年1月に配布するという方向性を決め、関係者への周知と理解を図った。

●成果の評価

総合型地域スポーツクラブは、実証事業を活用することで、多くの中学生が休日にスポーツ活動に参加できる体制づくりを進めるための検証を進めることができた。

一方で、指導者の確保や、人件費等多くのコストを要するため、実証事業が終了した後の運営等、依然として課題も残されている。

●今後に向けて

総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団の活動に加え、文化少年団やクラブチーム、保護者の会、習い事や塾など、中学生の休日の活動の選択肢は多岐にわたる。今後は、「中学生は休日に部活動に参加することが当たり前」であった価値観を、「中学生は休日の活動を自分で選ぶようになる」に転換することに適合した展開が必要となる。

2.実証内容と成果③

アンケート結果・広報資料

実証事業に参画した総合型地域スポーツクラブ三団体（UPOPO十王スポーツ文化クラブ、滑川ファミリースポーツクラブ、ひたちみなみスポーツクラブ）は参加啓発チラシを活用し、面的・広域的に広く参加者を募集した。

特にひたちみなみスポーツクラブでは、常陸太田市、ひたちなか市、東海村の生徒が自治体の枠を超え、参加した。

～スポーツ庁 地域スポーツクラブ活動体制整備(地域移行実証)委託事業～
令和6年4月から第1、3土日、令和8年4月から全ての休日の学校部活動が行われなくなります

**十王中学区・日立北部
地域クラブ会員募集**
「じゃうずにやりたい」「練習場所がほしい」「試合をしたい」中学生
コーチ・マネージャー同時募集(ボランティア会員)

月2回(原則第1・3土曜日)3時間 十王中学校・十王スポーツ広場 他
(対象) 十王・豊浦・日高・滑川・中里各中学校生徒
※他学区生徒の参加も可
(内容) 試合をするための基礎基本技能向上と全員試合
(持ち物・服装) 学校部活動に同じ
(必要経費) ①年会費一人3,000円(保険料含む)
②練習参加料 1回500円(利用チケット制)
(申込方法) 加入申込書を運営委員会事務局にお渡しください
※2月から見学・体験、申込みは随時可能です。種目により加入人数制限があります。
※年会費支払い、利用チケット購入(10回分5,000円)は、正式参加前のお手続きとなります。

問合せ先：十王中学区・日立北部 地域クラブ運営委員会事務局
特定非営利活動(NPO)法人UPOPO十王スポーツ文化クラブ
事務所(十王スポーツ広場クラブハウス)
TEL：0294-39-3977 (不在時転送有) FAX：0294-39-3987
MAIL：office@upo-upopo.jp (担当：緑川 ☎ 080-5523-1616)

十王中学区・日立北部 地域クラブ加入申込書 令和6年 月 日

会員情報		※プライバシーポリシーに添った取り扱いを要する個人情報	
ふりがな	性別	学年	学校名
氏名		平成 年 月 日	加入申込サテライト
住所	日立市	緊急連絡先電話番号	
この番号は(保護者・家族・勤務先)のものです			

上記の旨の加入申し込みを承諾します。

保護者署名

印子

休日のクラブ活動 参加申込書

NPO法人 滑川ファミリースポーツクラブ

令和6年度より第1・3の休日の部活動はなくなり、今までは滑川中学校だけのクラブ活動でしたが、日高中学校と合併でNPO法人滑川ファミリースポーツクラブと連携して行うことになりました。クラブ活動開始は、6月1日(土)からとなります。
参加を希望する方は、下記の参加申込書をご提出ください。

日時	基本第1・3土・日曜日 のどちらか3時間程度	活動例	例えは・・・ Aさん 平日の部活動→バスケットボール 休日のクラブ活動→卓球 Bさん 平日の部活動→バレーボール 休日のクラブ活動→陸上 など、平日の部活動とは 違う種目を選ぶことも可 能になります
場所	滑川中学校		
会費	年会費：3,000円 月会費：1,000円/2日	参加申込書	担任の先生にご確認ください 締切期：5月10日(金)まで

※1回目
日時：6月1日(土) 各練習会(9時終了予定)
場所：滑川中学校体育館
年会費、月会費(6月分)あわせて4,000円をお支払いください
※クラブ活動についての説明をしますので保護者の方
も出席してください
※8時15分から30分程度
NPO法人滑川ファミリースポーツクラブ指導者に
よるからメンタルケア実施予定
その他 指導者が決定するまで、クラブ活
動を開始できない場合もあります

クラブ活動一覧(予定)		問い合わせ
1. 男子バレーボール	7. 卓球	滑川中学校
2. 女子バレーボール	8. 軟式野球	電話 24-7034
3. 男子サッカー	9. 陸上	NPO法人滑川ファミリースポーツクラブ
4. 女子ソフトテニス	10. サッカー	電話 51-4496
5. 男子バドミントン	11. 柔道	
6. 女子バドミントン	12. 軟式野球	

5月10日(金) 締切期		平日の部活動	部
参加申込書			
このがけ	性別	学年	生年月日
氏名		平成 年 月 日	
住所		緊急連絡先	
休日の参加希望クラブ活動 (1人1種目の参加を希望します)		クラブ	

【生徒への参加啓発チラシ】

出典：滑川ファミリースポーツクラブ

毎月
第1・3日曜日
9:00～12:00
久慈サンピア日立
or
京丘中学校

2024年6月開始
中学校部活動
支援事業
部活動がお休みの
第1・第3日曜日は、
ひたちみなみSCの
教室で技術を磨こう！

先着50名
集まれ！！
ソフトテニス部員

参加料 年会費1,000円+月会費1,000円

申込み
問合せ
NPO法人ひたちみなみスポーツクラブ
日立市久慈町7-1-1 南部支所内
☎ 090-4439-1195
hitachi.373.sc@gmail.com
申し込みQR

出典：ひたちみなみスポーツクラブ

出典：UPOPO十王スポーツ文化クラブ

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【滑川ファミリースポーツクラブ・柔道】



【UPOPO十王スポーツ文化クラブ・バドミントン】



【滑川ファミリースポーツクラブ・男子バレー】



【ひたちみなみスポーツクラブ・ソフトテニス】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年

検討委員会設置、検討開始

検討委員会での協議

令和5年

検討委員会における協議、関係団体との協議

検討委員会での協議、実証事業の実施等

令和6年

関係団体との協議

令和7年

中学生の受入れに協力できる地域クラブの拡大

●ステークホルダー

- ・総合型地域スポーツクラブ関係者
- ・スポーツ少年団関係者
- ・学校関係者等

●経過

関係者からなる検討委員会を実施（3回）

●実施にあたって生じた課題

指導者不足、実施場所、教員の関わり方、財源、行政の関わり方など

●実施内容、工夫した点 等

検討委員会では様々な意見が挙がった。本市の総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団の数が県内最多であるという財産を活かす方向で調整を進めた。

●ステークホルダー

- ・総合型地域スポーツクラブ関係者
- ・スポーツ少年団関係者
- ・学校関係者等

●経過

検討委員会実施（3回）、実証事業実施（1団体）

●実施にあたって生じた課題

市としての方向性を定めること

●実施内容、工夫した点 等

スポーツ少年団との懇話会、全市立中学校への概要説明、関係団体等へのアンケート調査等により実態を把握するとともに地域移行に係る理解の推進を図った。

●ステークホルダー

- ・総合型地域スポーツクラブ関係者
- ・スポーツ少年団関係者
- ・学校関係者等

●経過

検討委員会実施（3回）、実証事業実施（3団体）

●実施にあたって生じた課題

市としての方向性について理解を得ること。

●実施内容、工夫した点 等

市としての方向性を定め、検討委員会、学校長会、スポーツ少年団、市P連等に説明会等で周知・理解を図った。

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和8年度から休日の活動の幅が広がります！



日立市の休日の部活動地域連携・地域移行スケジュール

令和7年度

・休日に中学生の受入れに協力できる地域クラブ等が掲載されている冊子の情報を、QRコードにより閲覧できる案内チラシを用いて、各中学校で開かれる入学者・保護者説明会等でご説明します。（案内チラシは令和8年1月頃配布します。）

令和8年度

学校部活動は平日の活動になります。

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

茨城県 土浦市

自治体名：茨城県土浦市

担当課名：教育委員会指導課

電話番号：029-826-1111

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	123 km ²
人口	142,114 人
公立中学校数	8 校 含義務教育学校1校
公立中学校生徒数	3129 人 含義務教育学校後期課程
部活動数	122 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

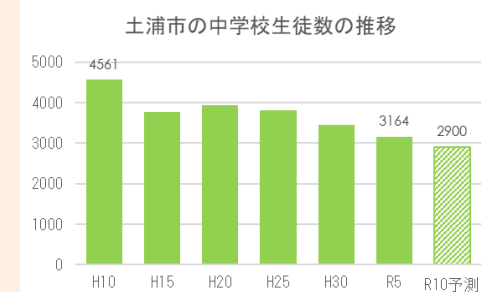
少子化に伴う生徒数の減少により、部活動部員数や教職員数も減少し、単独校での部活動維持が困難な状況となっている。土浦市の中学校生徒数は令和5年度で3,164人であり、10年間で約15%減少している。令和10年度には2,900人まで減少する見込みとなっており、平成10年度から比較すると30年間で約35%も減少する見込みである（途中、合併により一時的に増加した年度あり）。

令和6年度の部活動は市内8校で122部ある。部活動参加率は87%と高い割合ではあるが、部員不足のため単独での活動に支障をきたす部が複数校、複数部で見られるようになっており、生徒の活動機会の量的・質的確保が課題となっている。

学校現場においては、特に専門性のない競技等の部活動顧問になることでの心理的な負担が大きく、現状の指導体制を維持することは極めて困難であり、教職員の兼職兼務を含め、指導者が自分の希望する競技において指導できる体制の構築が必要である。

部活動種目	18種目 ※男女別のものも1種目としてカウント
部活動数	8校122部（8校123部）
参加者数	2629人（2750人）
参加率	84%（87%）

※R6.5月調査（ ）内はR5.5月
令和6年度土浦市立学校の部活動の状況



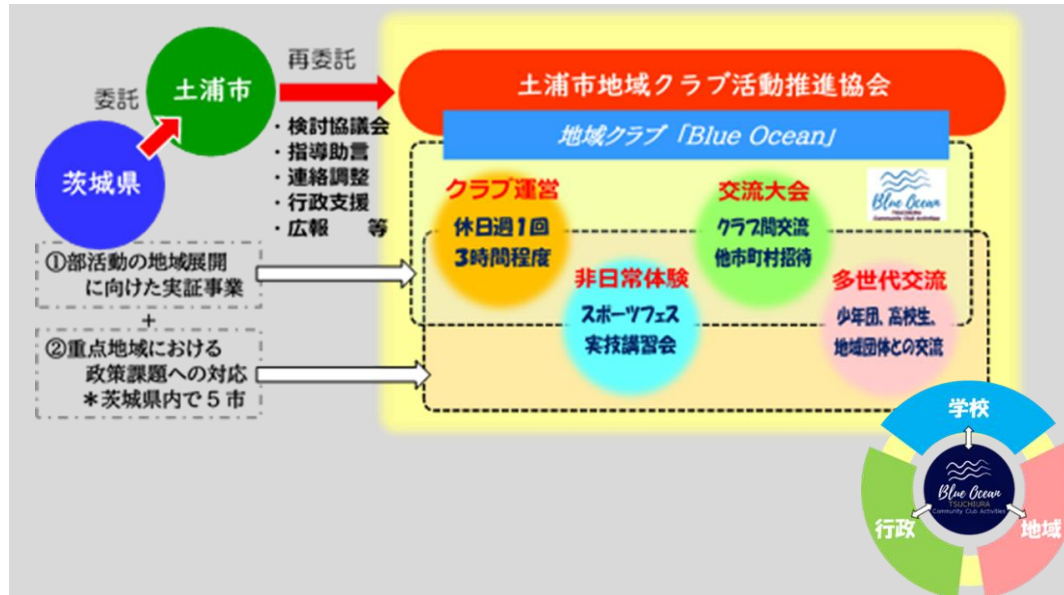
OH18年の合併によりH20は一時的に増加
OR10には、30年前のおよそ2/3となる可能性

30年間の土浦市の中学校生徒数推移

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・部活動地域移行の制度設計、協議検討、運営団体及び学校等への助言、指導
- ・部活動指導員配置を含む部活動数適正化に向けた取組
- ・学校や中体連、地域企業等関係者との連絡調整及び広報活動

◎首長部局

- ・スポーツ少年団、スポーツ協会等との連絡調整
- ・市体育施設等の貸出調整、減免措置
- ・補助金やイベント後援などの運営団体に対する後方支援及び広報活動

年間の事業スケジュール

令和6年4月	新年度地域クラブ参加手続き 部活動指導員配置
令和6年5月	部活動改革検討協議会① 部活動改革プロジェクト推進委員会① Blue Ocean交流大会
令和6年6月	土浦市地域クラブ活動推進協会総会 指導者研修会 部活動改革プロジェクト推進委員会②
令和6年7月	部活動改革検討協議会②
令和6年8月	夜間クラブ活動実証（サッカー）
令和6年9月	部活動改革プロジェクト推進委員会③
令和6年10月	部活動改革検討協議会③ Blue Oceanスポーツフェス2024
令和6年11月	部活動改革プロジェクト推進委員会④ クリニック講習会
令和6年12月	部活動改革プロジェクト推進委員会 タスクフォース会議
令和7年1月	部活動改革検討協議会④ 新入生保護者説明会 アンケート調査
令和7年2月	部活動改革プロジェクト推進委員会⑤ 小学生見学会、少年団体験交流

※毎月1回 定例ミーティング（拠点リーダー・学校統括チーフ）

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	21 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		21 クラブ（35 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	126 人	全体の運営スタッフ数	127 人

②体験会やイベント等の開催実績

【Blue Ocean交流大会】

クラブ会員相互や他市町村の合同チーム等との交流や、日頃の練習の成果を発揮する機会の確保等を目的に、各競技ごとに交流大会を開催した。

令和6年5月25日（土） 軟式野球、バレーボール

令和6年5月26日（日） 軟式野球、サッカー、バスケットボール

※会場として、市体育施設を使用（年間の調整会議にて予約）

【クリニック講習会】

各競技の技術力を向上したり、競技の楽しさを実感したりすることを目的に、専門性の高い講師を招請して開催した。

令和6年11月9日（土） バスケットボール

令和6年11月10日（日） バレーボール

令和6年12月21日（土） サッカー ※高校サッカー部との交流も兼ねる

※会場として、市体育施設を使用（年間の調整会議にて予約）

【夏季夜間実証（熱中症対策）】

夏季の活動において、参加生徒の安全を確保しながら活動機会を確保するため、サッカーのナイター合同練習会を試験的に実施した。

令和6年8月24日（土）・25日（日） 17:00～20:00

会場：市体育施設（ナイター設備のあるグラウンド）

※8月24日（土）は集合後、雷雲の接近により中止

【Blue Oceanスポーツフェス2024】

多様なスポーツ体験機会の提供を通じて、多世代・他団体の交流機会を創出するとともに、地域にも部活動地域移行についての理解を深めてもらうための周知機会として、土浦市教育委員会と土浦市地域クラブ活動推進協会の共催で部活動地域移行をテーマに大規模なイベントを開催した。

令和6年10月14日（月・祝）スポーツの日 9:00～16:30

●主な内容

スポーツ教室（野球・サッカー・ラグビー・ハンドボール・ダンス）

スポーツ体験（バスケットボール・バレーボール・ボッチャ・フェンシング）

体力測定・適性診断

講演会（大学教授、高校野球監督、市教委）

ステージイベント（小学生の合唱・演奏、地域クラブ紹介、ソーラン節）

協賛企業ブース出展

キッチンカーコーナー

【小学生見学会及び少年団との交流】

小学6年生を主な対象に、クラブ活動の見学や会員との交流を通して地域クラブ「Blue Ocean」の活動内容について理解を深めてもらうため、見学会及び少年団との交流を実施した。

実施状況：2～3月に各クラブ2回程度

※少年団との交流は、団の要望により随時

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

③各クラブに関すること

運営団体	種目 ※新規のものは末尾に (新)を付ける	クラブ名	指導者数	延べ参加人数 平均参加人数	実施回数	実施時間帯	活動場所	実施期間	会費	大会参加方法
土浦市地域クラブ活動推進協会	軟式野球	Courage Epics Spirits Wish	26 人	2,771 人 18.4 人/1クラブ	【基本活動回数】 月 4 回 ※原則、土日の いずれか週 1 回	【基本活動時間】 午前 8:00~11:00 または 午後 13:00~16:00	学校施設 グラウンド または 体育館	R6/4/1 ～ R7/3/31	【想定金額】 活動費 2,000円/月 年会費 2,000円程度 ※現在は市財 源より補助金を 充当	原則：部活動 ※大会の要件 により地域クラ ブで参加可能 な大会について は一部、実証と して参加
	サッカー	Courage Nexus Spirits	22 人	2,454 人 28.0 人/1クラブ						
	男子 バスケットボール	Courage Epics Spirits Wish	21 人	2,609 人 18.5 人/1クラブ						
	女子 バスケットボール	Courage Nexus Spirits	14 人	1,163 人 11.0 人/1クラブ						
	男子 バレーボール	Courage Nexus Spirits	17 人	2,001 人 18.8 人/1クラブ						
	女子 バレーボール	Courage Epics Spirits Wish	20 人	3,621 人 25.5 人/1クラブ						

※延べ参加人数・平均参加人数は2月末日までの集計人数

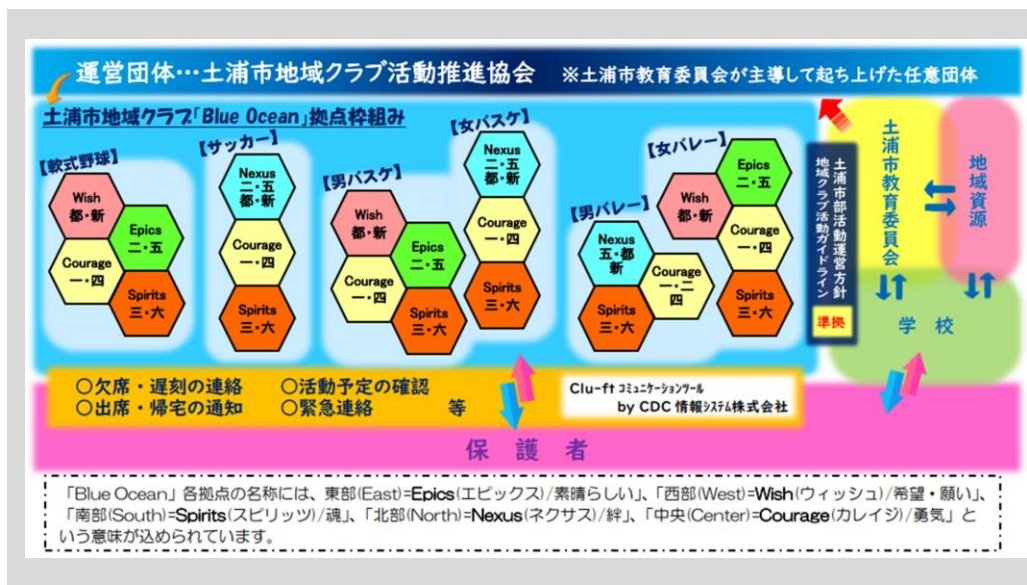
2.実証内容と成果

主な取組例

●土浦市地域クラブ「Blue Ocean」活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	野球、サッカー、男子バスケットボール 女子バスケットボール、男子バレーボール 女子バレーボール
運営団体名	土浦市地域クラブ活動推進協会
期間と日数	令和6年4月～令和7年3月 月4回程度（土・日いずれか1回）
指導者の主な属性	兼職兼務の教職員 ※部活動指導員含む
活動場所	市内中学校・義務教育学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	想定金額：26,000～33,000円 ※移行期間は0円（公金により充当）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

◆事務局（統括責任者）

役割：会員・指導員の管理、物品等の管理、スケジュール調整、連絡調整

◆クラブ拠点リーダー 21名

役割：定例ミーティングへの参加、スケジュール調整、クラブ活動管理

◆学校統括チーフ 8名

役割：定例ミーティングへの参加、学校との連絡調整

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

部活動改革検討協議会を継続して開催し、部活動の段階的な地域移行等の部活動改革の在り方について検討した。

下部組織として、市中体連関係者を構成メンバーとする部活動改革プロジェクト委員会を位置付け、学校現場の声を取り入れた具体的な方策等を検討した。

運営団体においては、毎月、各クラブの拠点リーダーや学校統括チーフを集めミーティングを実施した。

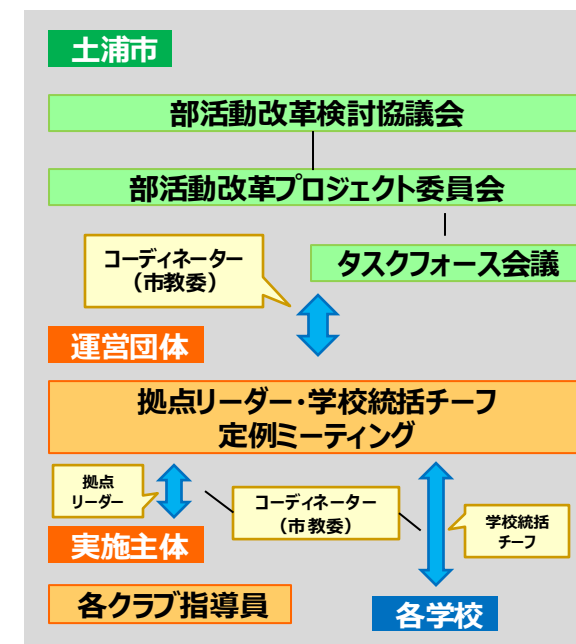
取組の成果

市としての方向性や各種課題に対する協議を行い、決定した方針に基づき、下部組織で具体的な諸課題への対応を検討することで、学校現場の声を取り入れながら、運営団体におけるクラブ運営を含む実証事業を展開してきた。

- ・部活動改革検討協議会 … 年5回開催
- ・部活動改革プロジェクト推進委員会 … 年5回開催
- ・追加競技に係るタスクフォース会議 … 1回

決定事項については、コーディネーターが中心となり運営団体との連絡調整や指導助言を行い、運営団体においてはリーダーとなる指導員が各クラブや学校との連絡調整をコーディネーターとともに行うことで、スムーズなクラブ運営ができた。

- ・定例ミーティング … 年10回開催（4,8月は未実施）



コーディネーターの具体的な動きの実績

土浦市部活動改革推進事業の一環として運営団体事務局業務にも携わることで、市教育委員会と運営団体、学校間の連絡調整の中心役となった。また、実施主体となる地域クラブBlue Ocean指導員の配置や調整についても主たる窓口となることでスムーズな活動が可能となった。

今後の課題と対応方針

競技種目を追加拡充していく際に、クラブ指導の方針や併存する学校部活動との連携の在り方についてのコンセンサスをどのように得ていくかが課題となる。各競技代表を交えたタスクフォース会議やクラブ代表者での定例ミーティングの内容や方法をさらに工夫していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

指導者は、運営団体の指導者人材バンクに登録した方の中からクラブとマッチングし必要な人数、委任している。各クラブに配置された指導員の中で調整し、都合のつく指導員2名（会員数により増の場合あり）が指導にあたる体制を構築する。指導者は3つのカテゴリーで募集し、経験や資格、熱意により多様な形で協力できるシステムとすることで、より多くの指導者が確保できるようにした。また、クラブ指導者を複数名配置することにより、指導員同士が指導方法を共有したり高め合ったりできるようにし、指導スキルの向上も図っている。

クラブ配置指導員

野球	19名/4クラブ	フリー指導員 7名
サッカー	20名/3クラブ	フリー指導員 2名
バスケ	27名/7クラブ	フリー指導員 8名
バレー	30名/7クラブ	フリー指導員 7名
巡回指導員 2名		
救護指導員 4名（主にイベント時に従事）		

※フリー指導員はクラブをまたぎ指導者が足りない際に従事

※指導員は全員、事務局にてスポーツ安全保険に加入

指導員3つのカテゴリー

資格要件や本人の希望によって、
カテゴリー登録・委任及び配置

◎指導員（有償）
主たる指導者として指導

○ボランティア指導員（有償）
主たる指導者と指導・サポート

△ボランティスタッフ（無償）
活動のサポートや見守り

取組の成果

指導者を3つのカテゴリーに分類し募集することで、高いレベルの資格等を有していないが、子どもたちのため、地域のために地域の一員として協力したいという方も登録できるようになり、少しずつ幅広い人材の確保への糸口が見出され、量的な確保の観点から成果が見られた。会員の保護者対象に行った地域クラブ活動満足度調査では、肯定的な回答の理由（複数回答）の中で「複数の指導者が見てくれるので安心」との回答が4番目に多く、安心・安全なクラブ活動という点で保護者から評価されたことが分かる。

また、クラブ配置指導員が複数名いる上、フリー指導員もいるため、指導回数が調整できる点は、兼職兼務で指導にあたる教職員の負担軽減につながった。とはいえ、現在は平日部活動が併存する移行段階ということもあり、多くの教職員や学校関係者に協力していただいている。今後は、持続可能なクラブ運営や子どもたちの活動への有益性、教職員の負担軽減の視点から、地域人材の割合を増やしていく必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

取組事項

指導者を委任するにあたっては、資格等の確認を行い、カテゴライズして指導員の委任をし、特に経験や資格の少ないボランティア指導員やボランティアスタッフが希望すれば将来的に指導員としても従事できるよう、主たる指導員と組み合わせるなど配慮して調整したうえで配置を行った。また、巡回指導員がクラブを定期的に巡回し、クラブ活動実施の課題や成果を共有したり、指導方法について助言指導したりすることにより、指導スキルの向上を図ることで持続可能なクラブ運営に向けての人材育成にも寄与している。さらに、指導者の質を高めるための研修機会として、協会主催の研修会にてコンプライアンスや指導方法に関する研修を開催したり、指導員代表者が集まるミーティングの際にミニ研修を実施したりした。

その他の指導者研修実績

拠点リーダー・学校統括チーフ定例ミーティングにおけるミニ研修

「熱中症の事故防止及び対応、スポーツ外傷の応急処置 など」

講師：土浦市地域クラブ活動推進協会理事

【開催日】 毎月第2水曜日を基本に開催（4,8月を除く）

【参加人数】 平均30人

※研修内容については、資料を全指導員に配付するとともに、代表者が各クラブで伝達

指導者研修会の開催内容

「ジュニア期における効果的・効率的なトレーニング」

講師：島田 真梨子 様（とちぎスポーツ医科学センター）

「指導者のための倫理ガイドライン」

講師：土浦市地域クラブ活動推進協会理事

【開催日】 令和6年6月8日（土）

【参加人数】 86人

受講者の声

自分の競技経験と部活動指導経験をもとに指導に当たっていたが、科学的な視点でトレーニング内容を考えたり、指導に当たったりすることはできていなかった。今後は、子どもたちの心と体の成長に合わせた適切で効果的な方法を意識して活動内容を工夫していきたい。

今後の課題と対応方針

多くの方が本業の傍ら指導員に携わっており、すべての指導者に様々な内容の研修を受けてもらうためには、定期的な指導者研修の機会を設けるだけでは都合により受講できない人が出てしまう。今後は、必要な内容をそれぞれのテーマごとに分けた動画教材等のオンデマンド配信により、個別に受講できるシステムの活用を検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

市教育委員会が主導して起ち上げた運営団体が計画的にクラブ運営を行うことができるよう、行政が支援しながら持続可能な体制づくりを進めてきた。また、学校との連携を図り、現場の実態や受益者の声も考慮しながら公益性の高い事業を目指すことで、地域企業や団体からの物的支援・人的支援を受けやすくし、協力体制の構築に努めた。

取組の成果

教育委員会が助言指導を行いながら、コーディネーターを中心に学校との連携を密に図ることで、併存する学校部活動と連動したクラブ活動を実施することができた。大会参加についてはまだ課題が残っているが、市中体連とも連携しながら大会参加の在り方を検討することができているため、参加生徒や保護者には一定の安心感をもっていた。また、地域の企業や団体にとっては、地域移行の取組に協力することを通して自分たちの持つ強みを社会貢献につなげることができるため、多くの企業・団体が協力に前向きであった。一方で、周知や協賛セールスの体制整備が途上であったため、企業側に十分なメリットを感じていただけなかった点も発見できたため、改善が必要である。

地域企業・団体の声

- 社会貢献につながるのぜひ協力したい
- 子育て世代との交流を通じて声が聴けてありがたい
- 次世代の人材育成に協力したい
- ▲もっと早く声をかけてくれれば協力できた
- ▲自分たちのPRにつながる場が少なかった

地域企業・団体の協力

イベント事業での企画・運営への協力 … JTB茨城南支店
地域クラブ運営・イベントへの後援 … 土浦商工会議所
イベント協力 … 土浦市スポーツ協会、筑波大学スポーツ局
イベント協賛 … 23社（団体）※物品提供等含む
協賛金 約300万円
他 飲料、クーポン、イベント出演 など

今後の課題と対応方針

協力を要請した地域の団体の多くが、趣旨に賛同し協力していただけた反面、協賛制度を含む協力体制が整備途上であったため、幅広く協力要請を行うことができなかった。また、年間を通じたクラブ運営に対しての協力体制の構築も課題となっている。さらに、今後の文化芸術活動を含めた競技・分野の拡充に向けてはより多様な団体等の協力が必須となる。次年度は、地域の吹奏楽団や市PTA連絡協議会等の各種団体との連携も強化を計画していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

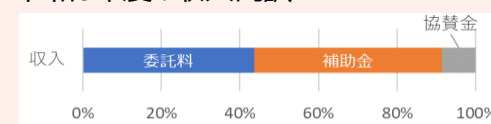
取組事項

学校部活動に参加している生徒や保護者が安心して地域クラブにも参加できるよう、部活動運営方針に準拠した『土浦市地域クラブ活動ガイドライン』を策定し、平日と休日の活動で生徒の負担が過多にならないよう配慮しながら地域クラブ活動を実施した。活動内容についても、競技志向だけに偏ることなく「楽しさ」と「学び」を大切に、将来に向けての多様な選択ができる環境が提供できるようにした。また、地域クラブ専用のコミュニケーションツールをシステム会社と共同開発しており、スケジュール確認や出欠確認メール等で保護者への安心感に寄与している。さらに、移動への負担軽減のため、会場を主会場のみでなく弾力的に運用することで、参加生徒が自力で活動場所に行ける機会の確保にも努めた。

クラブ活動の詳細

会員数	752 人 中途退会 24 人を含む (1年:3人 2年:2人 3年:19 人)	指導者数	指導員：114 人 ボランティア指導員：5 人 ボランティアスタッフ：3 人 救護指導員：4 人
延べ活動回数	735 回	延べ参加者数	14,619 人
具体的な内容	通常練習（基礎練習、実践練習など）・クラブ合同練習（基礎練習や交流試合） 練習試合（クラブ間や他自治体中学校等の部活動チーム） 大会参加 ※地域クラブ主催大会や一部の地方大会等		
参加生徒の声	○学校単位では人数が少なく、レベルの高い練習もできなかったため地域移行はよかった。 ○楽しかった。他校とスポーツを通して繋がることは大切だと思った。 ▲平日の部活とあまり変わらず地域クラブを行っているという実感が湧かなかった。 ▲初心者も楽しめ、身に付くような指導方法を考えてほしい。		
保護者の声	○指導者の質の高さに満足してるが、弟が入ったときも同じくらいのレベルで指導を受けたい。 ○指導者が複数いることや他校との交流は社会性を高めるのでよい活動環境だと思う。 ○来年部活は引退になりますが、地域クラブはその後参加可能なので受験勉強の合間に気分転換させてもらえたら嬉しい。 ▲一緒に活動する学校とのレベル差があり、レベルに応じた練習ができることを期待する。 ▲欠席の連絡方法をもう少し容易な方法にしてみたい。		
運営経費	クラブ運営経費として、指導者への謝金とクラブ活動用具等の消耗品費が継続的にかかる。また、大会への参加費、練習試合等の運営費などが都度、必要となるため、財源の確保が必要となる。		

令和6年度の収入内訳



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



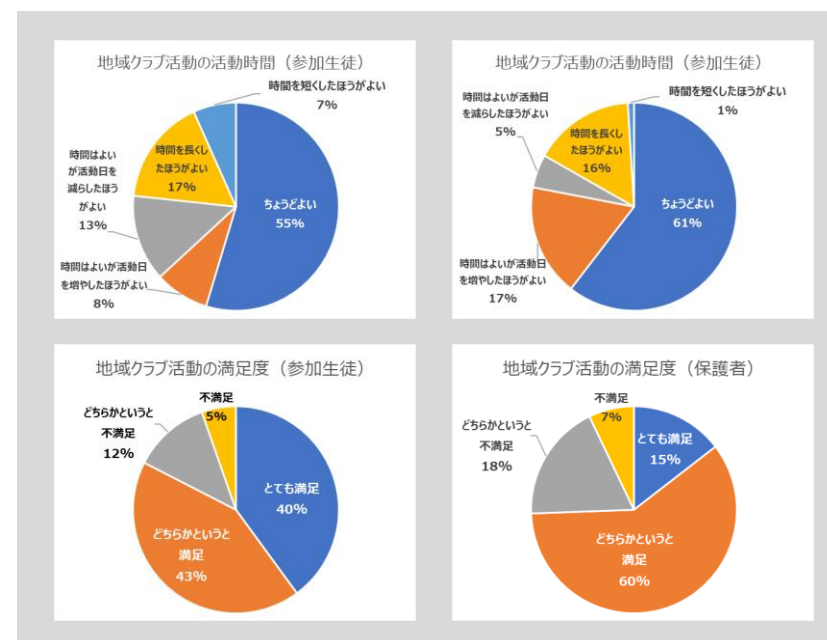
取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

地域クラブの活動は、現在は休日のみに限られるため、会員及び保護者対象のアンケートでは、「活動機会や時間を増やしたい」と感じる会員及び保護者が2割程度見られるものの、6割程度は「ちょうどよい」と回答しており、活動による負担が過多にならないように配慮することができている。また、同アンケートの満足度調査では、会員の8割以上が肯定的な回答をしており、活動の楽しさや他校生徒との交流、十分な活動時間の確保などを理由としている。保護者は会員に比べるとやや肯定的な回答が少なくなっているものの、やはり活動の楽しさと他校生との交流を主な理由としており、満足度の高い活動を継続することができたと考える。

コミュニケーションツールは、実際に運用しながら機能の改善・追加を行ってきた。出席・帰宅時の保護者へのメール送信機能は保護者にとっては安心して子どもを参加させられる機能であった。一方、連絡機能や会員及び指導者の管理機能等については改善が必要であるため、さらなる開発を検討していく必要がある。



今後の課題と対応方針

現在、クラブ活動に参加している生徒の中には、競技・種目、活動頻度などの選択はもちろん、活動内容についても競技志向とエンジョイ志向で異なるニーズの生徒が混在している。多様なニーズに対し、どこまで、どのように応える体制を構築していくのかについてはさらなる検討が必要である。また、中学3年生が引退せずに活動継続を選択できる環境は新たな価値となり

うるテーマであるため、プロジェクトの一つとして継続して体制整備に取り組んでいきたい。コミュニケーションツールは、必須となる機能について改善を加え実証を続けているが、より安心・安全なクラブ運営のサポートツールとして活用するためには十分に機能していない部分もあるため、システム会社と共同して開発を進めていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

現在は、一部の部活動においての実証事業であるため、市から補助金や地域企業等からの協賛金を運営費に充てることで、受益者負担を一時的に免除し、実証ができるようにしている。また、次年度に向けては、新たな財源を確保するための協賛制度の基盤整備や各種助成金への応募等を行った。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

地域クラブ活動をスタートさせるためには、運営団体の体制整備が必須となる。主なイニシャルコストとしては運営団体の設立費用や事務局業務に必要となる機器や消耗品が必要であった。クラブ活動においても、ボールやビブス、マーカーなど多くの消耗品を揃える必要があるため、計画的・段階的な整備を進めていくことが大切となる。

■ランニングコストの分析

会員や指導者の管理、経理、スケジュール調整、連絡調整など事務局業務を行う職員の人件費の他、事務局消耗品や各種リース代、各種会場使用料が発生する。クラブ活動においても用具や救急用品等の消耗品は定期的に追加する必要がある。また、各種手続きやシステム利用等に係る手数料が大きな負担となる。

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

年会費：2,000円程度
保険料、システム利用料、手数料等

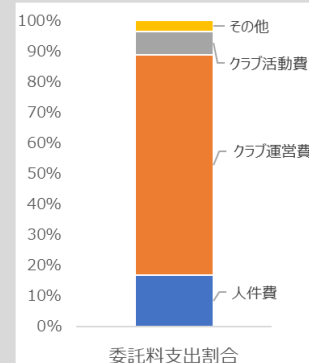
活動費：2,000円／月
指導者謝金や活動に係る消耗品費等

※上記金額は想定金額であり、今後の検証により変動する場合がある。

保険料は年間800円。指導者謝金は会員20人に対し2名の指導員で積算

左記試算額（想定額）をもとに実証事業を継続しているが、クラブ運営の実証を進めていると想定していなかった支出も多い。また、物価高騰及び最低賃金の引上げ状況等を考慮すると、事務局職員の人件費や指導者謝金も見直す必要があると考える。

収支バランス



現在は、受益者負担分を補助金により賄っており、収入の大部分は委託料と補助金となっている。委託料支出割合は、クラブ活動に伴う人件費、消耗品費より、実証事業として実施したイベント開催の支出がかなりの部分を占める形となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



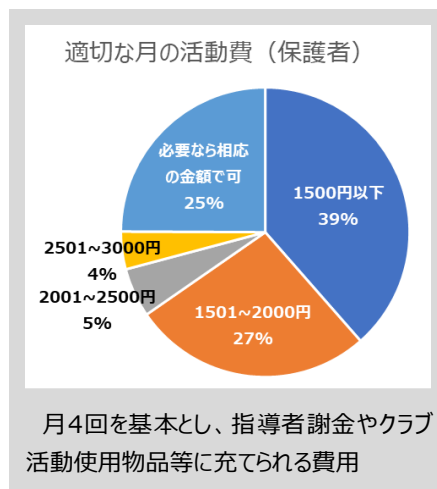
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等 / キ：学校施設の活用等

取組の成果（カ）

地域クラブ活動の実証事業を進める中で、先行実施で取り組んでいる競技の学校部活動に参加している生徒及び保護者にとっては新たな対応に係って少なからずの負担を強いられている。そのため、受益者負担を免除することで9割以上の生徒が休日の地域クラブ活動に参加し、多くの検証に役立った。

受益者負担額について地域クラブ会員の保護者対象アンケートでは、低廉な会費を希望する割合が高い一方で、適切な活動環境を整えるために必要な費用は、受益者負担額として徴収することに賛同する意見も一定程度見られ、内容の質の確保と合わせた金額の設定が課題であることがわかった。



今後の課題と対応方針（カ）

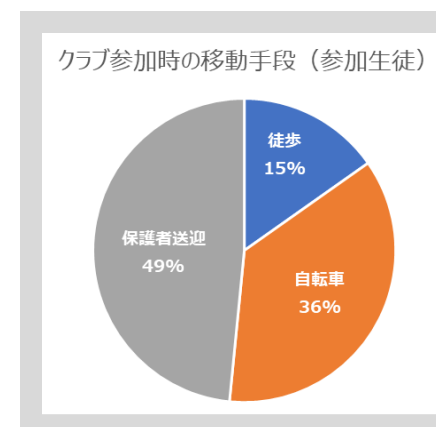
参加費用負担軽減には、適切な規模での市からの補助金を継続するとともに、学校部活動にかかっていた費用等の活用を含め、国や県からもバランスの取れた経済的支援が課題となる。

取組事項（キ）

学校部活動との連携・連動を意識して学校との連絡調整を行い、学校施設を学校部活動と重複しないように利用できるようにしたり、地域クラブと学校部活動でそれぞれ所有する用具等を共用したりした。

取組の成果（キ）

検証アンケートでは、活動場所が在籍する学校でなくなる場合の移動の負担が課題として見られるものの、学校との協力により優先的に使える活動場所を確保できたことで安定したクラブ活動につながった。参加生徒のアンケート結果から、4割の生徒が主な移動手段として自転車を利用することができていた。



今後の課題と対応方針（キ）

体育館及びグラウンドは比較的借用しやすいが、校舎施設設備を利用する際のセキュリティや管理体制については、設置者である市教育委員会が十分に検討し、対応方針を策定していかなければならない。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

実証事業2年目となり、重点地域に係る政策課題への取組と併せて幅広い取組を行うことができた。地域クラブ運営に関しては競技・種目は昨年度のままであるが、通年での実証により中学3年生の参加に係る課題や成果を確認したり、年度切り替えに係る会員・指導員の更新等、事務局業務の課題を明らかにすることができた。

また、地域クラブを支える体制の構築については、指導員の確保や学校部活動との連携・連動の面で学校と密な連携をとることで、多くの課題に取り組むことができた。さらに、イベント事業を通じて幅広い世代や団体との交流を進めたことは、地域への発信、協力要請につながり、保護者を含む地域住民に「部活動地域移行」について理解していただくとともに、地域企業や団体との新たな関係性の構築を実現し、今後に向けての大きなメリットとなったと考える。

未だ課題が山積する状況ではあるが、「子どもファースト」での持続可能な運営体制の構築のため、さらなる内容の充実を図りながら、行政・学校・地域が三位一体となった改革を推進していく必要がある。

●成果の評価

次年度からの追加競技を決定し、ロードマップを更新しながら段階的な地域移行を見据え改革を進めることができた。地域クラブでの指導を希望する教員の兼職兼業については、希望に応じて選択でき、現在の部活動顧問としての負担が軽減される仕組みが概ね整い、平日部活動との継続した活動環境を補完する人材確保に繋がっている。参加生徒や保護者へのアンケートでは、地域クラブ活動への満足度は高い割合となっているものの、多様なニーズに対応していくためには、さらなる課題への取組、環境整備が必要である。運営費用については、受益者負担額を適正な額に設定するとともに、自主財源を生み出す必要があると考えるが、持続可能な体制の構築のためには、長期的な国、県及び自治体からの支援も不可欠である。また、本実証事業では、委託契約期間の都合により年度末における年度更新事務や会員及び指導員の管理事務について検証することができず、独自に課題検証作業が必要となる。

●今後に向けて

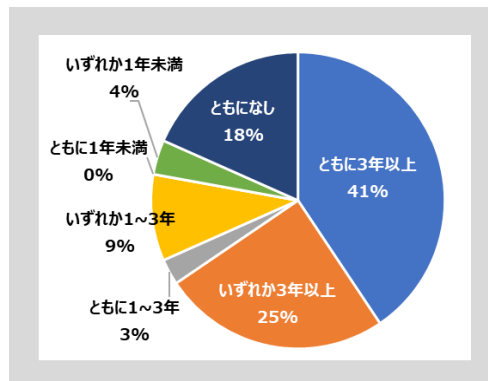
地域クラブの在り方を模索する中で、「新たな価値」をどのように創造していくかが重要であると強く感じる。「楽しさ」と「学び」を支える新たな価値の創造を目指し、持続可能なスポーツ・文化芸術活動の環境を一体的に整備していく必要があり、令和8年度に全部活動、休日地域クラブ移行を実現する目標に向けて、次年度は運営団体を一般社団法人化し、地域企業や団体からの協賛制度を確立するなど運営体制の基盤強化に努めていく。また、将来的にはさらに少子化が進むことが予想されるため、近隣自治体とも連携を図りながら地域クラブの運営を考えていく必要があると考える。

2.実証内容と成果

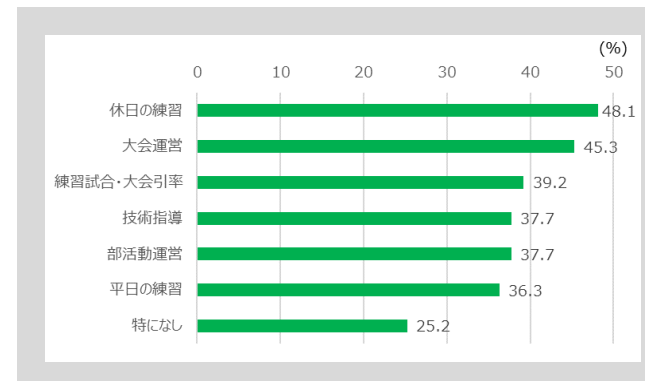
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（土浦市立学校部活動担当者対象）

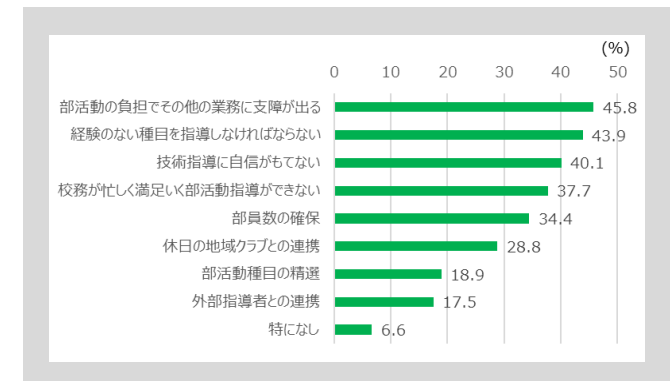
Q.今年度担当している部活動における昨年度までの競技経験や指導経験は？



Q.学校部活動に対して負担と感じていることは？
※複数回答

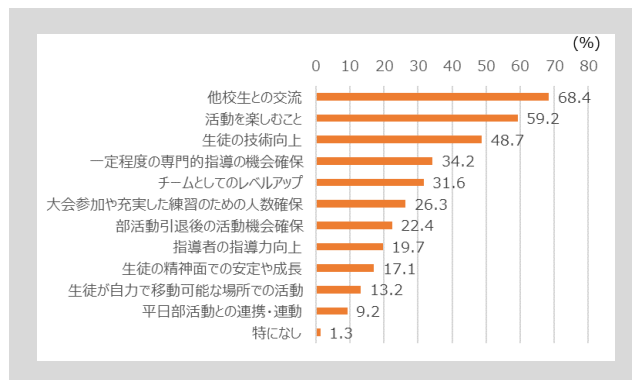


Q.学校部活動に関して課題と感じていることは？
※複数回答

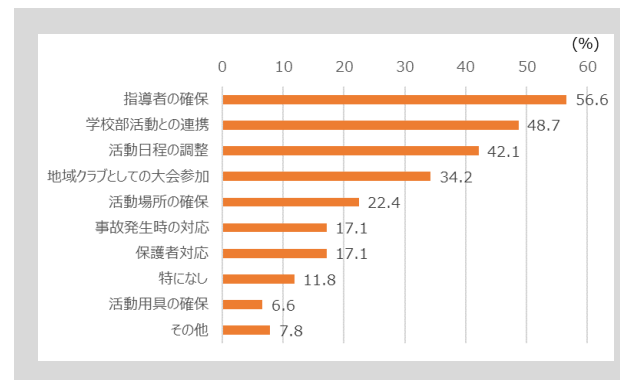


●アンケート結果（地域クラブ指導員対象）

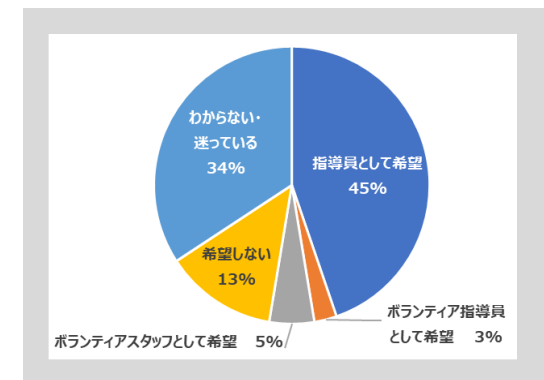
Q.地域クラブ活動における成果として感じていることは？
※複数回答



Q.地域クラブ「Blue Ocean」での指導にあたり、課題となっていることは？
※複数回答



Q.次年度も地域クラブ「Blue Ocean」の指導員として従事を希望しますか？



2.実証内容と成果

広報資料

昨年度より、地域移行の取組や地域クラブの活動についての周知拡大を図るために、年2回リーフレットを発行。市内小中学生全員に配付するとともに、関係機関や協力者等にも配付した。

※Vol.1、Vol.2 は令和5年度に発行済み

発行部数 11,000 部（A4 両面カラー）



【Vol.3 令和6年8月発行】



【Vol.4 令和7年2月発行】

【地域移行周知用リーフレット】

出典:土浦市地域クラブ活動推進協会

2.実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【地域クラブ活動（通常活動）】



【地域クラブ活動（夜間実証）】



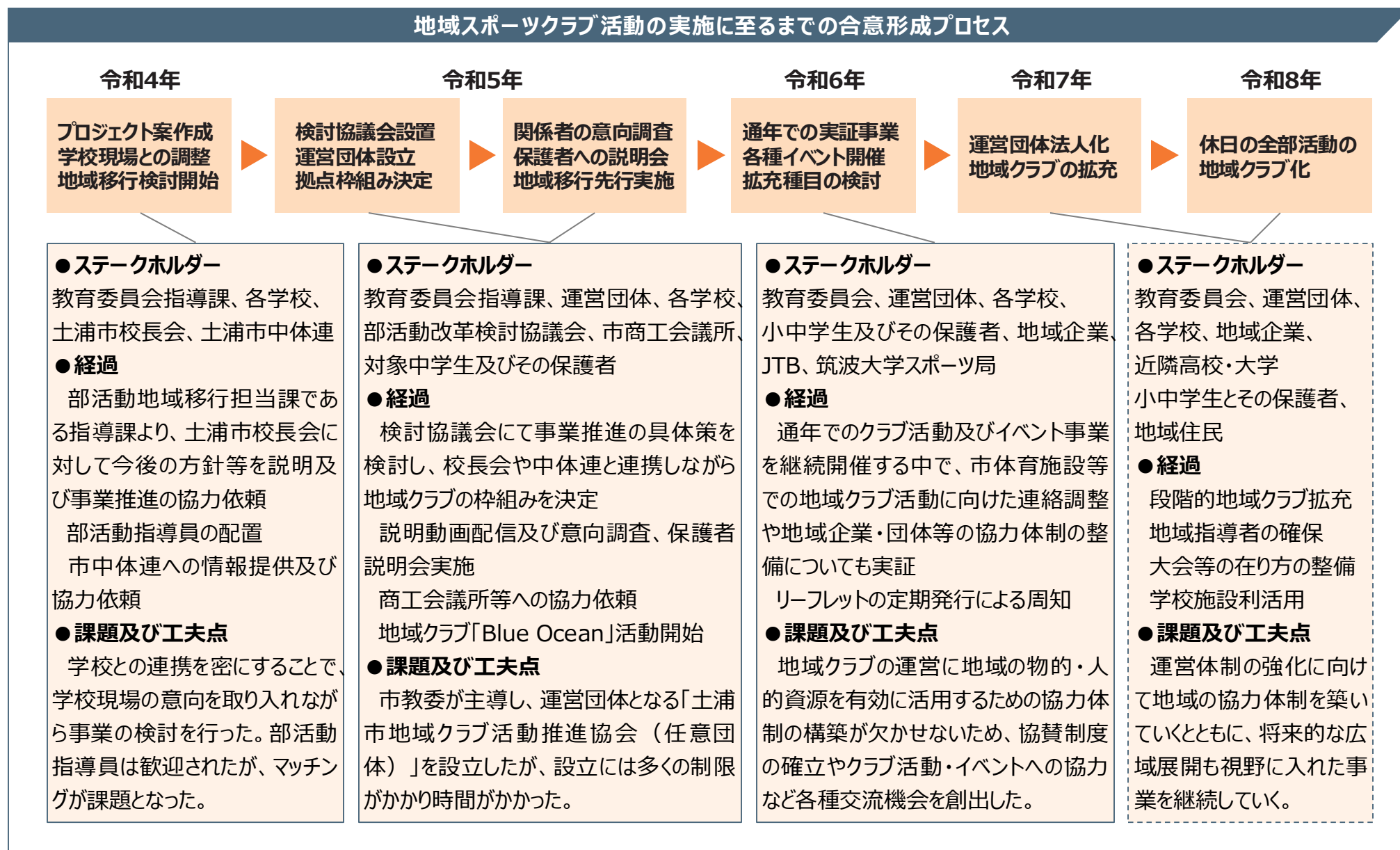
【クリニック講習会】



【スポーツフェス（多様な世代の交流）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

部活動地域移行に向けたロードマップ（R4～9年度）

土浦市教育委員会

